

特102

843

類一生の活教神典——萬代の一大



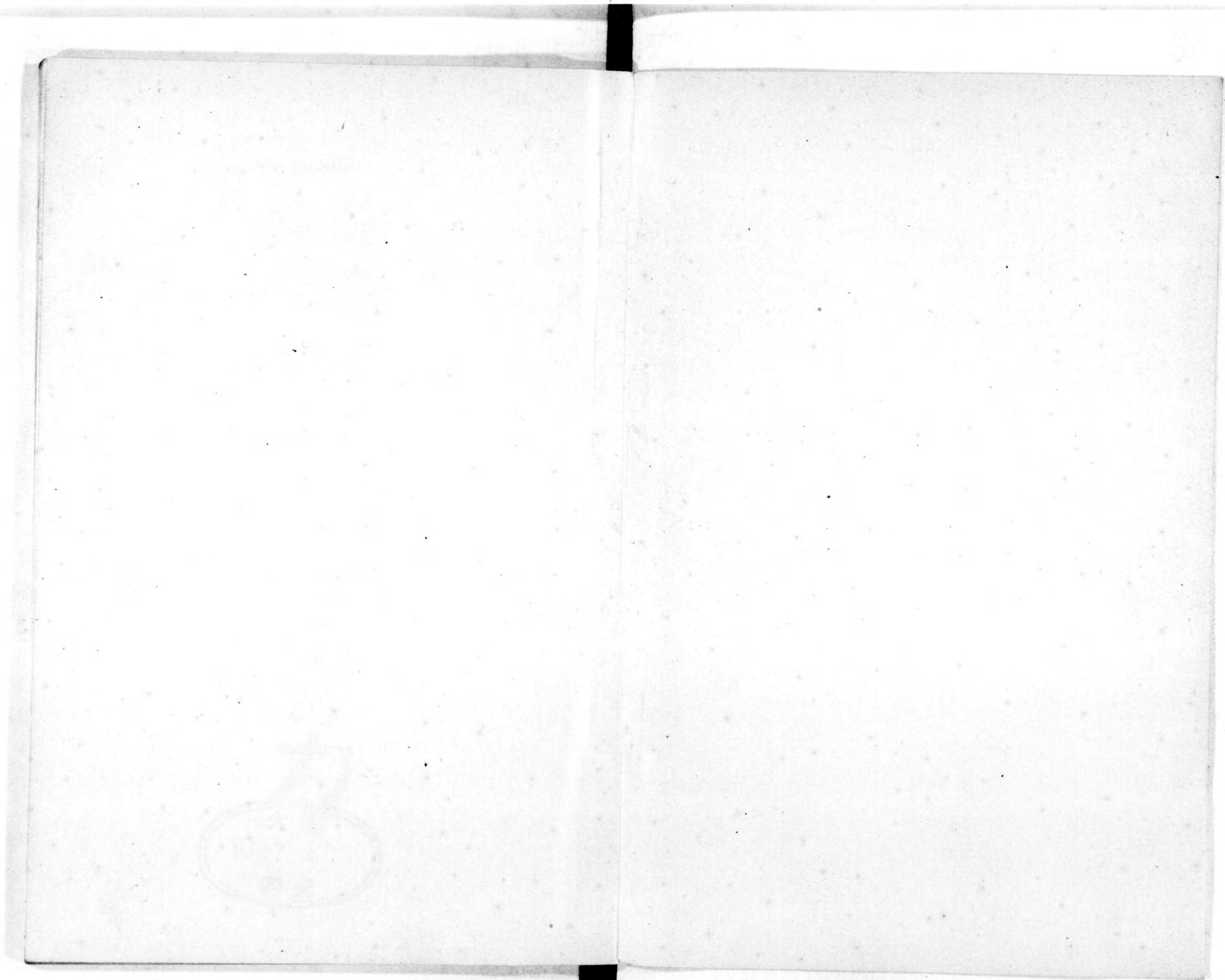
修養
資料
人間性發揮の力

立身出世の基礎學——國家隆興の大根底



始





特102
843

修養
資料

人間性發揮の力

大正
10 7. 11
内交

明治天皇御衣

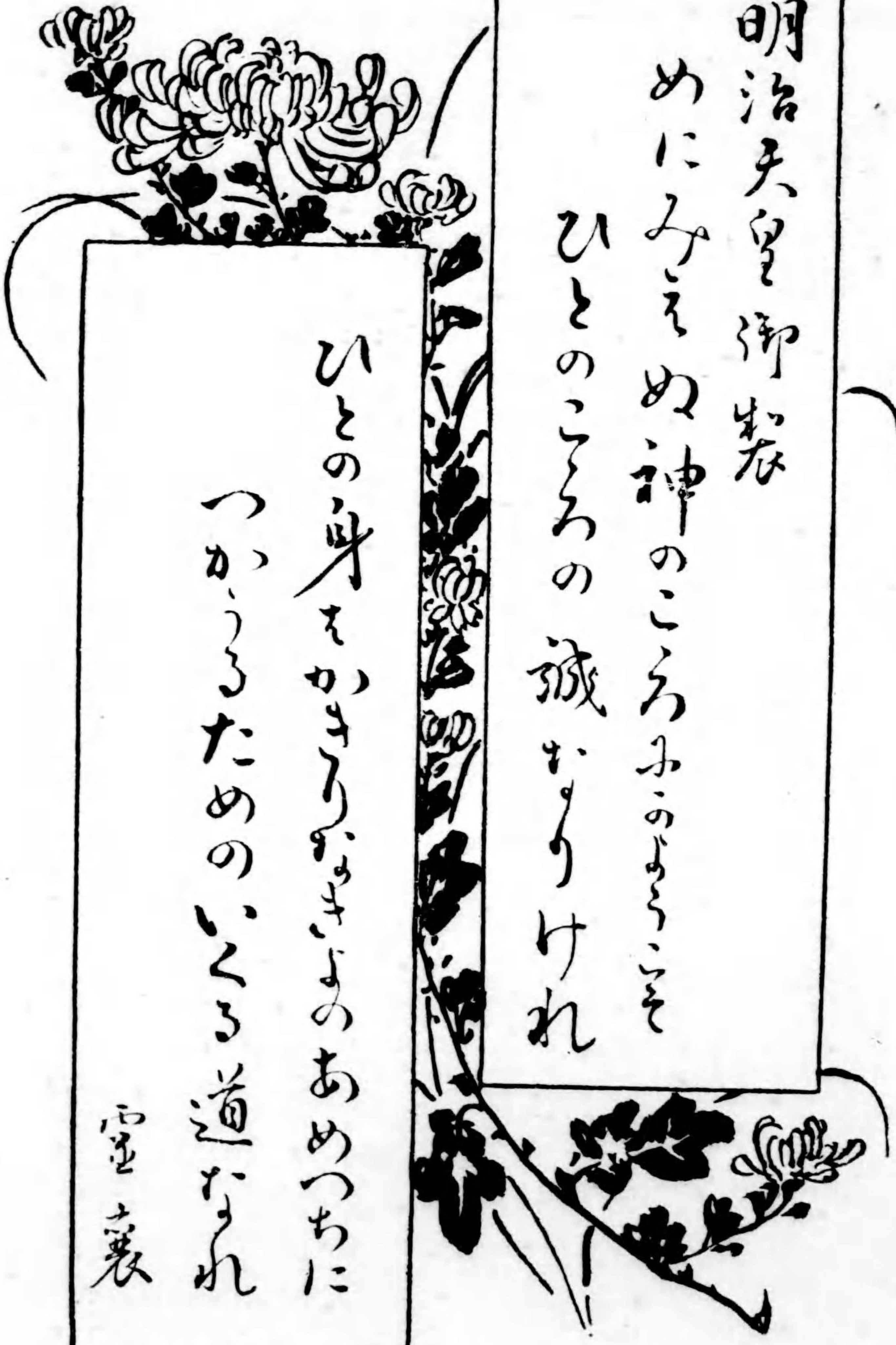
めにみえぬ神のこゝろふしを

ひとのこゝろの誠おしけれ

ひとの身をおしよるあめつちに

つかうたためのごころ道なれ

西宮 表



序

人は唯かこの世に生を享け立志出世を希はざるものあらんや。安定と幸福を冀はざるものならんや。然れども世の中には一定の矩規あり。天地中心の經緯あり。進むに正然の秩序ありて世は時と人の和により精練醇化新なる生命を宿し人間としての本能を顯現す。

吾人の往くべき道は天地に充てり。而してその往く真個の生命は自から天稟の能力を具有す。その真個性の活きは人間たるの活きを成就せしめんとするもの吾人の希望は天地正然の秩序によりて容れられ。一切の進歩發達は精練されたる真個性の努力にありて時代の表明となるものなり。

本書は能くその途に入るを欲せしめ自己本能の發揮に力し人生の真意義を悟り。所志の完全を期せしめ安定と幸福の増進に資するを以て本旨となす。讀者讀賢は宜しく熟讀玩味精讀の碎を盡して本書の真髓を體得しよく實現されんことを庶幾。如何に百萬言を費す大冊と雖もその要諦接せずば等用をなさず。一言一句と雖もその真理徹底。根本秘奥を極めたる小冊子の眞價は蓋し數等優るの參考資料たるを覺えん。

天下に成功せんとする 偉人格の信條

- 一 一體至尊を奉戴し盡忠の誠を念とすべし
- 二 國體の眞髓に活き國家同胞擁護の道に努むべし
- 三 常に健全なる精神と健全なる體力を琢きそめ根底を培えよ
- 四 名譽高き偉人格たらんとすれば苦行經驗學術の三要を踐むべし
- 五 其の究學の目的は宇宙眞理に準ふものたるにあるべし
- 六 吾は信に活る人間なりとし誠の熱狂者たるを辭するなかれ
- 七 自己天賦の體業に至誠一貫遵奉すべし
- 八 眞に偉大ならんとすれば偉大なる事蹟を遺すにあり

九 我主義は神の創造し給ふものなることを確信せよ

一〇 慈悲仁愛は天道の徳と合體する唯一の道なることを知るべし

一一 大理想の實顯は宇宙中心眞個本性を全うするの努力修養にあり

一二 天下に奉公の至誠を致し時代的の統一に大注目せよ

一三 剛健の氣象によつて起る強烈なる信念を保持すべし

一四 正義人道を尊み人間の自由を重んずべし

一五 熟慮真相を極め何事に當るも慎重なる對度を用す

一六 自助獨立の精神を尊み依頼心に陥る勿れ

一七 目的を立て死を決して進む中に成功なきものなしとせず

一八 機運に覺醒しその要諦を捉へ汝の賜とせよ

一九 人間の性能は無限に精々發達すべきものなることを確信せよ

二〇 汝の目的を達する爲には心頭腹を練れ

二三 素養の學術と修練の雄辯は健全なる國家社會の一新機軸たれ

二四 身の快樂は一時的夢なり決して誘惑に驅るゝ勿れ

二五 自己性の長短表裏を察知しよく之を精げよ

二六 天に服するものは人に服するなかれ而して慢心自我性を慎め

二七 人間界を超越したる感想を喚起すべし

二八 家法を密にし子孫繁榮の道を圖るべし

二九 汝の先祖と子孫の爲に其の名聲を始終せよ

三〇 健實なる自己心象は萬代の活教訓となるものなり

三一 萬世不易の大業は精神を根本となす

三二 大天地を動かすものはその汝の全身の靈力なり

三三 人間の生んたる學術に驚くこと勿れ宜しく百歩の道を知にあり

三三 他人の誹謗に聞を措かす自信に向つて進むべし

三三 吾は現代の神境を造るべき此身ながらの惟神なることを自覺せよ

(右の條々深く肝銘すべし)

爾靈妙は常あるに依る

靈 裏

主旨

地球の全面を掩たる戦塵は漸く收まり。乾坤一轉。天界の彼方に平和の曙光開き、新しき時代相を造らんとするに當り。顧みて、人類社會の内實を洞察すれば、大戦亂の影響により、物質界の錯亂變調限りなくその中心と安定を缺き、何れも國家の根底を悖るもの夥しとせず。異に思想界の大動搖は、實に吾人の耳朶を覆ふものあり、人心の浮薄浮動暗流涯りなく、各方面の社會を毒するの傾向擧々たる、靜かに想ひを凝せば如何に現代社會の人心頹廢して、眞個中心失れ上下を擧て意義ある人生の本性、人道公德等全然不可解無意味に埋られつゝある乎、此處に社會の裏面を洞察して愈々戦慄すべく、嘆慨に堪へぬもの多くあるべし。世道日々壞頹、人心刻々荒廢、邪說淫行縱横紛亂して人心の歸嚮を誤りつゝある、嗚呼興國の前途耿々然として、深に憂慮すべきにあらずや。

異に我が帝國の地位を看よ、方に内憂外患風波來、東洋の根據を蹴つゝあるを、此の時此の機

我が東洋の健全國民は如何の感をなす。徒に迷夢に耽り惰眠を貪る秋にあらず、漫に時流に浮遊して改造を云々するが如き愚を學ぶを止め、輕舉妄動を避けよ、宜しく國民の全精神緊張一番を要す、この時に覺めずして復た何れの機にか醒めん。

熟々と按察するに、宇宙中心を謬つたる今日の混沌状態は、翻つて新たなる時代相を形造せられんとするの時、刻下の問題は人類の向上目的自覺を悟る道を教ゆべき筈の、宗教哲學道德なる者、何等今日人目を新たにする世の統一を以て任ずるもの生れず、實に遺憾の極みと云ふべし。尤も奮きものは悉くその權威を失つて、之に代るべき新しきものを求むるの時代となり、新しき先覺者を要するや必然の勢なりと雖も、未だ曾て何物も見ず、之れ天職の自分を忘却して猶ほ浮游の徒と過し居るならん呵。著者は慮ふて斯道に效し、大に見る處あり深く思ひを潜めて今日に在る、宜しく人生に一道の光明を與へ人心の歸嚮を確實にし、健全の國家社會安寧福祉の一助たらしめんと欲する目下の急なるを察知し、人生の意義ある了解を求め、宇宙實在中心眞個性を養はしむるを以て、正に健全國家の本領なることを自覺せんとす。

凡そ國家と謂ひ社會と所ふ之を組織せる要素を極むる惟れ第一の道也。その人類各特有の眞個本

性 即ち健全なる人間性を極むることにある、其の國家社會の榮枯盛衰興亡隆退の別る、分岐點は、その國家その社會に生命ある形成分子の眞個人格如何に據るものにして、由是觀之、健全なる國家は健全なる分子を要す。至高心性に活る人間たるの自分を盡すにあり。自己責任を自覺して理性に入り天性に盡す忠なる人間性努力が、各々社會の根底となり健全國家の表象となるものなり。その國家の大問題を解決するに當りて、先づ其の細胞なる各己人の眞個性を養ふ、人生の根本に復歸せしめて、宇宙實在を活得せしむ、是れ本書一貫至誠の主旨なりとす。

世間の學者は如何に叫び、賢哲は如何に説くと雖も、各眞個性に活き、宇宙中心眞個本性に入るの道を辨へずば、何等價值なきものたるを免れず。

著者は淺學非才を顧みず、茲に人類同胞に公宜して、先づ其の大根底たる人間眞個大生命を全うする唯一の道、人類社會的生活並に精神的生活の實在向上發展の途を謬らず、各自稟賦の天性を闡明し、人生の眞意義を極め、氣質、體質、性格の改善。各眞個實在の長所を發揮して運命自から開拓さるべき、心身の完全。之が至善の指導を以てせんとする。本書は宇宙實在大中心を経緯とし、科學哲學を基礎として、平易明解、社會萬象融和合致何れの程度を以てしても、納得

容易、實顯體得せしむるに重きを爲す。

夫れ、萬衆の讀者は宜しく熱讀玩味、精讀の碎を盡して本書の眞髓を捉へ、國家人類同胞一身一家の運命を開拓し、進んで天與の幸福を享受せよ。

大正十年初陽

著 者 識 す

内 容 目 次

- 第一 命の作用に就て……(體驗)……………一
- 第二 宇宙の基元數……(現力)……………三
- 第三 天稟の法則……(根據)……………七
- 第四 富力者の道……(富源)……………七
- 第五 天性の發揮……(偉業)……………九

——奥附完了——

附人間性發揮の本領五ヶ條及各講原理圖解

本法圖解は本書内容全般をよく熟讀して始めてよく活得することが出来るものなり

運命活動原子體圖解

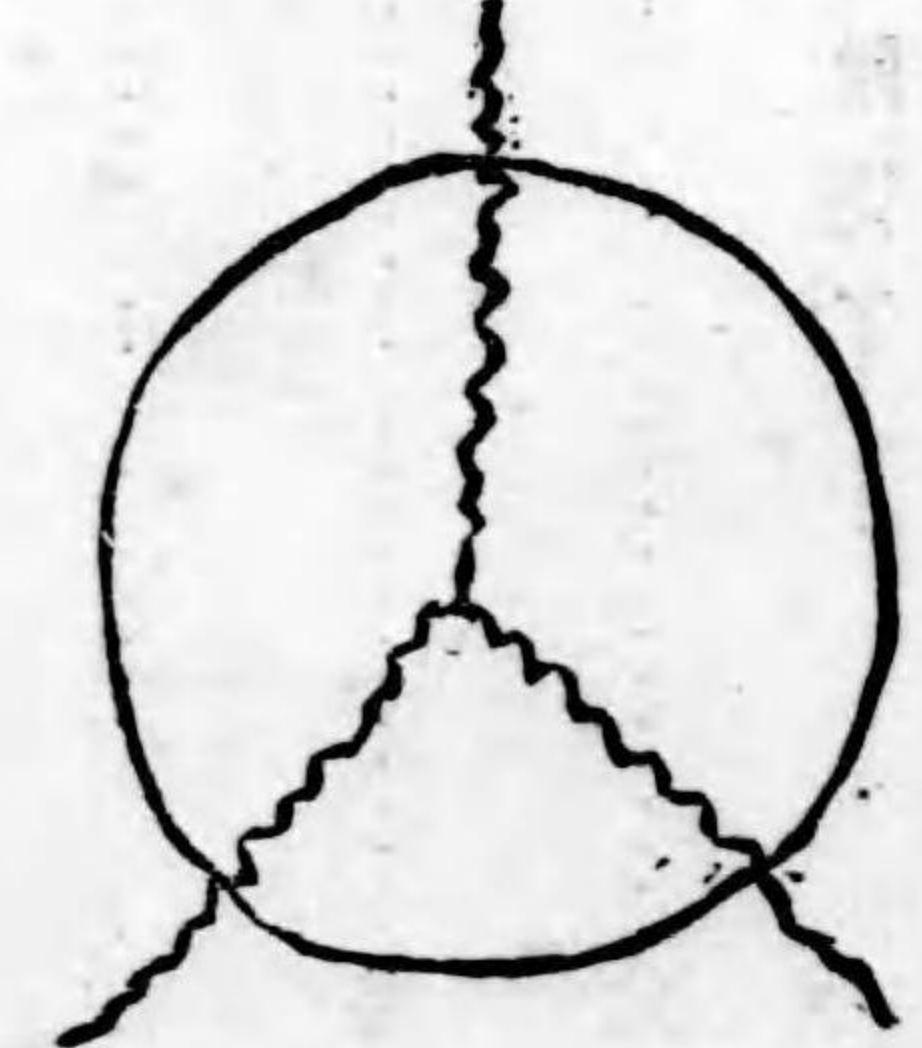
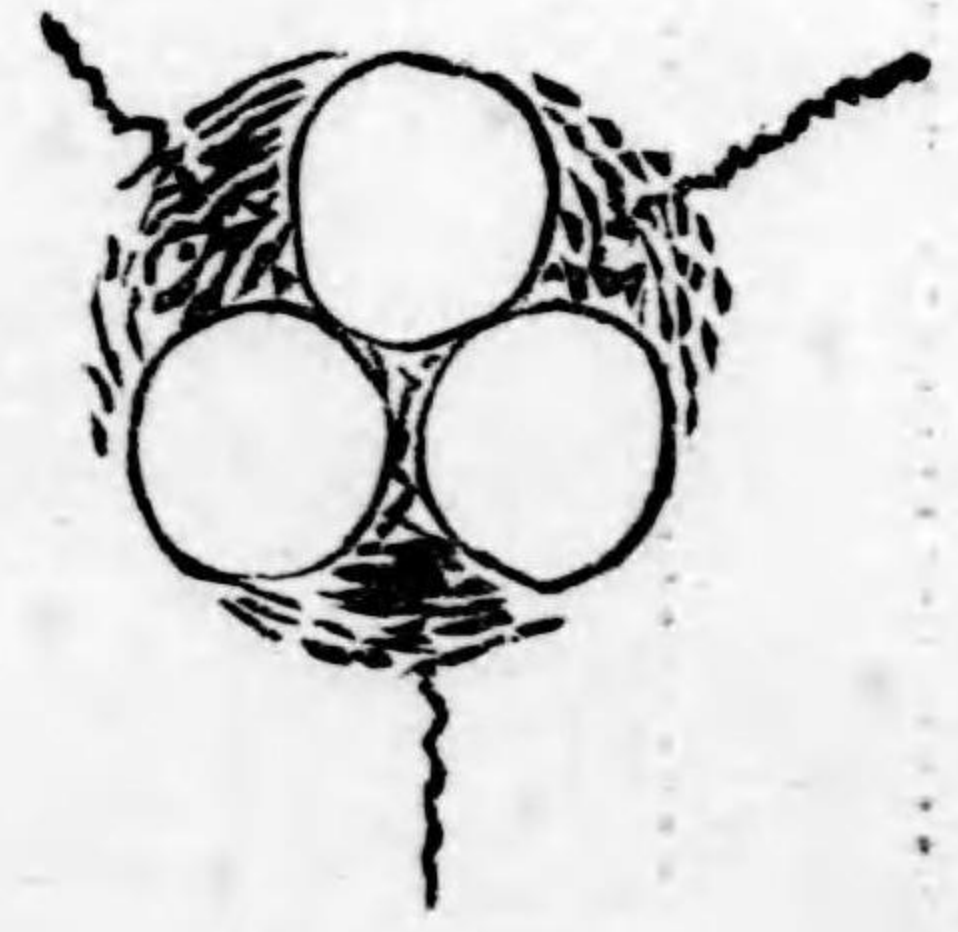
宇宙の容
るゝ無限
大のもの
表 象



宇宙
天地
人體體體

還元復歸一體其の道に容るを精性といひ合體
するを眞個性と云ふ無限大より無限微に至る
實體相活動本性主體循環原理作用總括明解

萬物精性
發生本性
原子主體



修養資料 人間性發揮の力

藤田 靈 襄 著

人間性發揮の原動力 運命の作用に就て (眞秘の實驗)

運命とは其の始終の結果を云ふのである。大にしては宇宙、天體、地體、小にしては一國、一家、一身に於る刻々現れたる結果である、時間は永劫萬代より一分時一日一年十年百年、此間に於る實在活動の作用具顯を以て名づけて今茲に運命と云ふ。この第一運命なる公義は單なる人間のみ、起る運命にあらずして、宇宙間世界に起る運命を指したるものである、依て人間もこの一部分に包括されて居ることを知らねばならぬ。吾人々類も宇宙と關聯して離るゝことの出来ない性質

運命の作用に就て

を具へて居ることを知得る、所謂宇宙間に介在して居る總ての萬物を包容統轄してそして各々精性發達彌々特長を顯現せしめる道があるので、之を運命の原動力と云ふ。

古來より運命なる語は人間の榮枯盛衰幸不幸に限られた言辭であつて、人為を以て如何ともなし難しとした神的靈的不可解の現象として、天より降り來りしもの所謂天命として諦めてしようが一般の通弊である。然るに今日自然科學に於る特殊文化運動に處する我が精性科學の上に於ては、この運命なるものを活用具現して運命開拓、心身改造、個性發揮、人格の向上、一家の圓滿、不幸の回復、特質精神的物質的に醇化創造しうる主として人間界一般何人も、實地應用啓發の道を示したる運命學なるもの、他年研究の結晶に爲りて生れた。實に文化新運動の一大機關として唯一無比現代に適應したるもの、現代國家社會に活用せしめて、或ひは一身一家眷屬の基に、立身出世學途の基に、利生厚生事業上に交際上に、その道を授けて地位名望を造り、安寧幸福を増進し人間眞個性の發揮、眞に中心本性を謬らす無限永遠に人生究達の目的を達せしめんと欲する、是れ本書斯道一貫の主旨であるのである。

元來運命なるものは宇宙活動を意味したるものにして、この宇宙の活動は時代の表象である、山

て宇宙眞理に順應したる國と人はよく榮えよく進むことが出來得る、而し活動と云ふ上に於ては自から變化がある、この變化に處する人間の覺悟と措置が大で、能く變化の高低を觀察して所謂時代の表象を推して活得したる人が、好運を得ることになるものにして、時代の變化異動はよく宇宙基元數によりて推測することが出來得るのである。

扱て運命なる公義の上に於ては何故に宇宙は活動するものであるか、謂ふまでもなく宇宙の活動によりて新生命が生み出されるのであつて、この宇宙が活動休止體となつたなら乃ち萬物みな消滅である、死である、例へば理想のない人間は廢滅であり亡國である如く而して理想のある人間は、人間と云ふ理想に活動して益々息むことのない氣象を保有して居る所謂、宇宙の生命に活るのである、故に天地自然の宇宙は最後大理想に向つて進まんとして居る、否進みつゝあるのである。大宇宙そのものが大活動であつて活動の現象が運命にして、運命は吾人に波及するに自から差別がある、大運命と云ひ小運命と云ふ此間の變化は千差萬別である。そしてこの宇宙濶達の勢は争ひ素れんとすれども、よく宇宙基元數によりて統一し、秩序整然本體に復歸せしめて歇むことがない。觀よ世界は世界の争ひ人間は人間の競ひ、山川草木禽獸に至るまで悉自我性の満

四
足を得んとし究竟の目的を達せんとして、争ひ競ひ惑ひ棄れんとすれども良く之を宇宙基元數によりて統一せられ、何等人類の活動には休止することを認めない、天の力は絶體に吾人に幸福を與へて居るのである、不運不幸は好運好福の一階段である、世界の大戦亂も、一國の紛亂も、一家の不和不幸も、之れ聽て新しき新生命が布かれ、新文化新幸福の生ずる前提の運動である、之れ則ち宇宙運命の一進歩一進化理想到達の徴であるのである。

諺に東哲「人生字を知るは憂患の始なり」と謂ひ、また西哲に「文明の極は罪惡なり」と云うて居る、實際この言は現象眞理を穿ち得て今も昔も變らない。元來世の轉變は文化運動達着の極點で新しき生命を活し古き過去の生命を葬り、新しき未來を組成する宇宙の眞理である、時代達着の現象であつて人爲を以て律することの出来ないものである。明治の元勳が舊幕を倒壞して新しき明治維新を造りたるも、之れ要するに我が國純眞の國學文明と、西洋文明の反映とが與つて力ある境遇時勢必然の結果である、之に目覺めざるものは亡び、之に目醒めたるものは榮ゆるのである。彼の世界の大戦亂に於ても、獨逸の罪に歸するは人爲的免れ難いが而し、之は獨逸ばかりの罪ではない世界全般の罪である、一世紀時代達着の結果として認容すべきものである。獨逸

が世界唯一文明の極度を活かして世界の爲に妙からず貢獻して居ることは競れない、獨逸は自國極度の文明を世界に試験すべく立つたのである、自から誇りて宇宙の道を御し世界を統一し安定を圖らんとして立つた、而し之は宇宙の眞理でないことが解つた、人類として宇宙眞理絶體の道を知つて居ないのである、物質科學の力ではまだく世界の統一は圖れない。

【近頃國內で喋れる新しき丹波綾部大木の御神諭と云ふ一節に、物質文明は神の違背に當るで昔に復歸れと言ふ奇態の神様がある、之を犯す人間共は必ず神罰が降といつてゐる、然し最も至極の御神諭であると感服す、之は大戦亂の結果でよく解る、元來宗教哲學を覗いた人には殊更によく解る筈である、他の宗教にも之と同様の意味を有して居るものにして之は理解して考へたら宜しいのであるが而し綾部は極端に出て居る嫌がある。まだ面白い一節は電氣や機械力を利用せる人間共は必ず神罰があつて火の雨が降るだの東京が原の武藏の野になるだの〇〇が綾部に遷れるだの綾部の空は飛行機が飛ないだの爆彈を投下しても綾部に限り地盤が堅いから壊れないだの狂氣の沙汰を言つて居る、其の實御本人たる神の子等は空中を飛翔することを知らず神の憎惡を招く、汽車に乗り電信電話で自己布教宣傳に努めて居るから面白い神様もあつたものだと思ふ。夫から

謎の鐘魂歸神の法だの何も不思議のことはない昔から東西兩洋にも屢々修業者が行つたものだ、(催眠術的原理)の一種である。も一つ彼の太靈道と云うのが世間に注目されて居るが要するに鹿爪らしい名を附けて方便を事とした一種在來の變化物であるのだ。何も知らない普通の人は何々神何々靈と彼等一流の不可思議の言葉に囚れてしまふ愚を演ずることがなきにしもあらず。之等はみな精神科學で解決を着けることが出来るが太靈道の如き稍現代的ではあるが眞に宇宙眞個性に活たる完全者と認めることが出来ない、實に人間俗界のものである。太靈道の面白一節に曰く、余が郷里の桑畑は殊に余の家の分に限り養蠶家の困る霜の害を免れた所謂余の方法であると眞面目臭ての話し、また聴衆も眞面目であるからお可笑い、霜害の如き同土地でも地理の具合で防がれるのもある夫れを御存知なく自分の信念力と信じて居るかしらん。養蠶地に生れた自分の土地の桑の宣傳をして居るから面白い。著者は斯る一派のお説を聴くことに實に衷心哀れまざるを得ない、斯う云ふ中に所謂世の地位階級名望頭のある人間が溺れ込むから世の中は明るい様で暗いのである。彼等が宣傳する如く眞に宇宙中心眞個性に活る靈力があるなら否、人爲を以て天爲を制するその力があるなら一國の事變や人間の病氣患難は人爲と人爲の間柄で容易く治癒り

そうなものだがそう云ふ結果は逆も現れない今の世の遣り口は斯う云ふことに屬するものが多い。元來一家世宗の教義を啓かうと思へば精神を根本として立ねばをらん、宗教的偉人格を造らねばならんのである、之が第一番肝要で眞に世の中を濟度し、世の中に自己を布かんとする上に於ては自から第一、宇宙一體の精神を保持して天の爲め人の爲め、獻身的努力を積んで世界に對つて苦樂の根柢を極めそして解脱照覽の誠を盡さんければならない、金慾や色慾に漁つて何ぞ一世の宗教家たるを得んや、著者は宗教哲學の見地から特に言及して置く次第である。今や世を擧て思想界の混沌を見る心靈界の錯誤、この時に當り雑多のいかゞはしき名目の下に、何々會何々法何々靈何々術曰く何々雨後の筍の如く實に忙しき世なる哉。然るに未だ一つとして眞に、人生の安定を極めたるものはない、人間才巧の口先斗りでは駄目である、皆金色欲に耽る自己假面を被る同じ穴の狐である、同體異名であると言つて置く。著者は最も必要に迫られたる現世に眞の大宗教家の出現せざるを憾む而已。餘り他事を批見するを好まぬが謬れる現代の爲に一寸附言しておくのである。】

諸時代に於ける適應の處作を語る上に於ては物質力機械力も之れ必要である、そうすれば吾人は
運命の作 に就て

直だ時代の覺悟が一番必要であつて物質力精神力對當の如何によつて起る其時代に目覺めて、自己を解し人を解しその國を解するそして眞髓を捉えるその人が眞に運命の原動力を把持し、人生の終りを全うする人類として究竟の目的を達したる人、之れ新生命を活得して益々時代に傑出する人となるのである。

謂までもなく、素金力や機械力が發達すると怎うも世の中が誤られ易い、所謂欲望の性をより以上を含むことになる、此の例は屢々社會に演ぜらるゝ處で個人でも身代が一寸殖えたら、すぐ威張たがる金を楯に種々の醜關係が結ばれる、今日米國の如きも専横我儘の振舞は其の兆候は殊に著るしい、世の中は進んで人間界に安心を與へる様な時節は幾万年代の後の事、國際聯盟の如き大に危ぶまずにはあられん、吾人生命と物質の變調は限りなく動くのである、豫め吾國民は大に鑑みる必要がある。元來世の中にはよく俗に優勝劣敗と云ふこの性は、宇宙何れにもある現象で殊に人間に甚だしく道理を解く人間が、禽獸の如く弱肉強食の蠻性を現はして居る、之も物質欲の發達した西洋に甚だしいのは將來に於る研究問題である。

予輩は斯く信じて居る、世界の大戦亂は宇宙一世紀の終りであつて一新紀元を造るべき大運動の極點である、所謂化成壞滅は宇宙進化の大法であるので當にその時期が到來したのである、この時代に吾人が遭遇して新生命を生むと云ふのは、實に光榮であることを記憶せねばならぬ。彼先年天空に大彗星が現れた、數百年の昔より古書に彗星は國變の徵時亂の兆として居る、之は迷信として一笑に附せ去るものではない東西兩洋にも暫々豫言したものである、殊に彼彗星は世界中を騒がせた怪星なのである、今日の科學者をしても學理の解決をよく與へなかつた、その大彗星の現れた十年餘の今日如何に世の中が變化したか、人心を慄したことは著るしいではないか、東洋に於ても西洋に於ても國勢の革變と云ひ、國家人心壞滅の表徴は事實深々刻々稀有の出來事であつたのである。恐らく之は地球のみではない天體の諸遊星も變化があつたに相違ない、之は天の暗示であつた、天と人との直觀的現象は一大國變となつたのである、古哲にも人間は小宇宙であると云ふて居るが實際宇宙の縮圖であるのだ、彼の千里眼や透視術の業でもよく解るのである、所謂潜在意識に現れたる處のものは人間を濁せない清い人間界を離れた處の天と合體した精神である、天を道とし天を貫く誠忠無比の英雄義士が永世神と祀られるのも宇宙現象の一つ、私心なく天の使命を全うせんとして立つたる清い義心の凝固りの表明で、實に人間は至高の動物である。

天と事を俱にすべき至上の動物であるのだ。

【彼の彗星の発見者は有名なる天文學者ハレー博士で故にハレー彗星と云ふ、百年に一度来る怪星である、世界で大騒ぎをなし恐怖に驅られた星なのであるが、彼の奇妙の尾を有して居て何千億の距離に達する、その尾が地球に觸れて人間が死ぬると云う様な説が出て、米國邊では洞穴を濠つて其の中に入つて居たといふ面白い話があつた、また開けた國程杞憂に驅れたもので天文學者も異論な前説を立て、煽つたものだ。當時天文學者は興味を唆つて研究したものであるが研究の結果が、太陽系に於る一つの遊星で、地球や他の遊星とは一種變つた引力作用から異つた軌道を行つた、頭は太陽面に近く尾が地球の方に蟠つて、變現出沒の態を演ずる實に奇妙の星である。その觀測の結果は地球に及ぼすと云ふた怖しい尾の性質は、炭素と窒素とシアン瓦斯とがその大部で、要するに炭素の化合物であるから極稀薄のもので何等障害がないことを知つたのである、また牽引性があつて彗星自體が諸星辰の軌道に障らないことも知つた、其太陽に近き頭即ち中核は地球少のもので一種の強き光を發し大速度を以て進むから、變形の光芒を放つのであると云ふ學說に止まる位のものでさてもあの彗星は何處に居るやら。今後百年の中に出て來ると云

ふのであるが果して然りや。

由來太陽の如きでも完全の學說がない、近き其以前は天動説を唱へて、コパルニカスによりて始めて地動説を漸く主張した位のもの其後大に、基礎を得て近來學者が天文地文を科學的に解決を與へようとして居る有様であるが、元來宇宙間天體地體無限の眞理を極むるは、到底及ぶべくもない、未だ遠き未來の事であらう、眇たる人智を以て解決を與へんとするは大海の小粟たるの觀がある、而し今後將來の時代相變遷と共に追々と天地間の深秘を開く、鍵を握る人間が現れて來るのである。

大體宇宙眞理と關聯して離るゝことの出来ない吾人至高心性の機能に於る一種特異のもの、總て科學眞理はその素を哲學上から糸口を生み出して居るのである。學術上から云つても人格上から云つても専門的學術上の新記録を啓かうと思へば、怎麼しても哲學思想のない人は眞に識見を布くことは出來ん、また完全體たり人格者たりする資格のない人であるのだ。今日哲學が勃興して大學のポット出の人にも哲學の研究者が多いと云ふは歡ばしい現象であると思ふ、是も時代の趨勢であるのだ。彼の近年騒がれた千里眼透視術の如きものに於ても未だ今日精神科學上の見

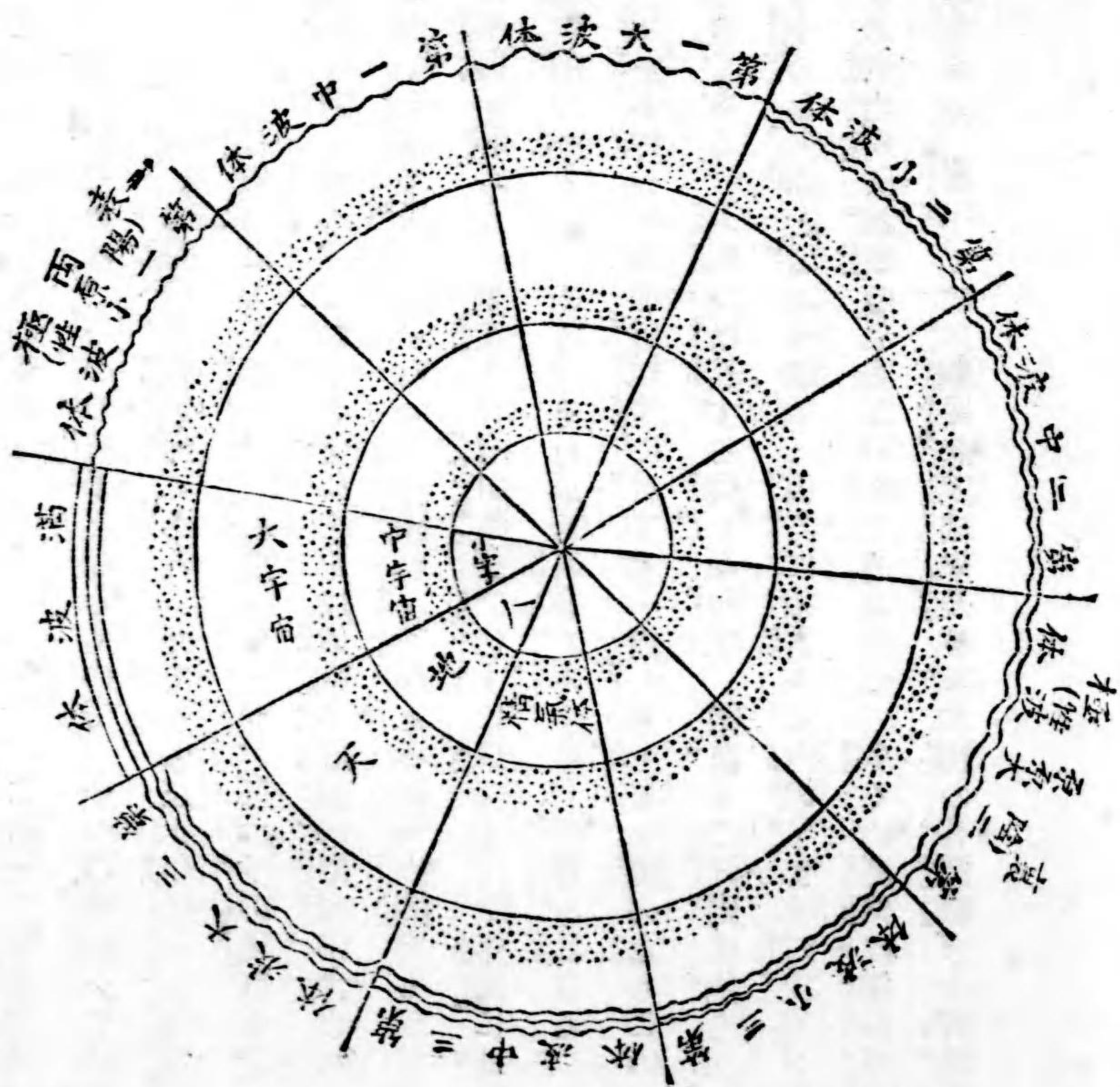
運命の作用に就て

地から、その根本原理の解決を極むることが出来ない、一流の學者と雖もなほ不可解のものにある特殊作用のものとして居るに過ぎない、之等の理想心理状態は能く宇宙間の眞理を極める補助學として、非常に必要のものと予輩は思ふのである、今日の學者が、知情意の三つに別けて心理状態を説明して居るけれども、今後數百年の後には新しき學者に於て必ず心理學の蘊底を極め、新組織の一學科を樹て世に貢獻する時があることと信する。】

是より運命原動力を解説する、先づ宇宙對運命なるものをよく説明して御參考に供すことにする。

【第一小波體の門より一二三四五六七八九十と滿波體の門まで十部門ある、之は宇宙間による宇宙基元數を以て象かしたるものであつて（宇宙基元數の解釋は後になす）一切の運命を豫測することが出来るのである。先一小波體を一ケ年とすれば滿波體まで十ケ年此間が一運命の變動期なので、そして三ケ年間を之れまた一期として、第一小波體第一中波體第一大波體となすのである。三ケ年間を小衝動の運命、十ケ年間を中衝動の運命、三十ケ年間を大衝動の運命とする、而して之を人間國家的行爲に當嵌めて見る、一箇人の人間であると三ケ年一辛棒で理想から理想に向つ

運命原動力圖解



運命の作用に就て

て進む素地である、この三ヶ年が物事を造る糸口であるのだで、この三ヶ年は混沌期であり活動期であり破壊期であり成功期である、一つの核子となるもので、一つの學科一つの職を教つても本當にウンと仕込んで三ヶ年この間の勉強如何にある。凡てこの三ヶ年は最も大切な意味があることを記憶して貰ひたい。石の上にも三年とか、桃栗三年とか、三つ子の魂百までとか、三尺の兒童之を知るとか昔から謂ふ如く、この三と云ふことは成就不成就の原理が含まれて意味あるものであるから、よくよく心得て居て貰ひたい。一國の政をとるにも内閣でも三ヶ年腰を落附て据ゑてゐなくては仕事振が解らん。事業また會社等創立の上に於ても三ヶ年間に地盤の根柢が造られると同時に倒壊如何が解るのである。それから社會を毒する、社會を益する、また無謀を起すと云ふ様なこと、不正事件や收賄や破綻等に於ても一箇人の上も一國の上もこの三ヶ年でチャンと献立が着て居るのである。人間が増長する慢心を起す、墮落する淫靡に陥ち、總て人間界の不動の姿勢が壞れる中心を失ふと云ふのは第三波に相當する西の年より前後三ヶ年に一番生じ易い現象である。この中西成は油断のならない年であるのだ、多くの實例は運命原動力圖解によりて結果を生ずるのである。遡つては大戦亂起因結果及び我が國の普選騒ぎや收賄事件、大正の

維新、日韓合併、日露事件シーメンス事件と綜合すれば合點がゆくのである、悉く運命原動力の原理で解決がつけえるので不思議のことはない深い意味があるのである。それから彼の人は成功すると云ふも要するに三ヶ年間の心掛如何による、用意周到の心掛と緻密の活眼を開いて世の中を接すればよろしいのである。彼の人は悲境に陥ると云ふも要するにこの三ヶ年の心掛の如何によるものだ、總て人間性核子が三ヶ年間に蒔れて胚胎の結果が良否如何を顯す、この三ヶ年は萬物生出妙用精性發達の原子體基元數であるのである。】
 夫でこの三ヶ年間に三つ合せて十ヶ年間になる中衝動と云ふ、人間なり時代なりの中心期となるのである、之は三ヶ年の轉變が三回あつて其の結果が十ヶ年一期の時代相を象かす、圖解の通り第一小中大波體が三ヶ年、第二小中大波體が三ヶ年、第三小中大波體が三ヶ年、之に滿波體を合せて十ヶ年の時代相が出来たのである。人間も運命如何はこの十ヶ年間に於る世相覺悟の結果を以て大抵に解るのである（運命開拓の原理は之から追々解及す）また一國の出來事もこの十ヶ年間の世相により其國の變動振りなり狀況なり國勢が解つて來るのである。第一の小中大波體は十ヶ年間の始元期、第二小中大波體は中元期、第三小中大波體が終元期となるので、第一と第二の

波體間に於る元機作用により第三波體にその結果が現れて出る、一國なり人間なりの成功失敗の分岐點、幸運不運の分岐點は總て第三波體に現れて來るのであるから、第一第二の波體中に於る心掛が一番大切であることを承知せねばならぬ。

【一家の家でも三代目が大切で三代目の人如何によつて家運の衰盛がよく象れて來る例は澤山ある、それから四と七の代數も詭く之は一家直系の世嗣がなくなり他繼の世相を含む基元數性を有して居る。

人が事業に取掛つて一番考へねはならぬは、一年、三四年、七八年、十年である、それから結婚や家庭の不和、病質に襲るとか、人間が墮弱に流るゝとか、失敗するとか、その人の年波體相應によく生じて來るものである、而し之等のことはその人の年齢により説明するのであるが、此處に我が國の例を以てすれば、彼の慶應年間に終る幕末の事件は終元期第三波體中に起つた出來事である。それから明治となり、慶應と明治の境目が滿波體で運命の衝動は轉變極りない混沌状態たるにあるのである。而してこの混沌状態に宇宙自然の法則によく違つて行く時は天理妙用の數を現し精性醇化發達する故に大明治を生んだのである。明治年間に於る十ヶ年の基元數はその數

理に現れる通りであるが、矢張り終元期第三波體に事件が生じて來る。明治七八年の征韓論による反亂兆候（予輩はかく想ふ彼の西郷隆盛等の卓見が其の當時容れられて居たなら、そして彼等が存命して居たなら或は國帑と犠牲を拂つた日清日露の戦争が未前に防がれたかも知れん、そして今日善政が布かれてあつたか解らん、兎角彼等の將來に於る偉大なる暗示は嘉すべしである。）十七八年の天災地變日韓衝突、二十七八年の日支衝突日清戦争。三十七八年の日露衝突日露戦争。大正三四年の世界大戦亂に於る日獨戦争。と云ふ具合で戦争の後は終元期末の滿波體でその大勢は相變らず混沌状態である。）

今や世界を舉て國々の状態は恰度滿波體に於る混沌状態期末である、この時に當つて國民はよくその國體に於る將來の覺悟を明かにして立たなくてはならぬ、而かせないと復々國家存亡の秋を終元期に演ずることにある、第三波體に演ずることのなき様にせねばならぬので、この心掛は大に首腦者の心すべき點であるのだ。殊に世界に於る日本の地位は最も危難の場合にあることは謂ふまでもなく、東洋に於る吾人の圍繞に就ては餘程考へねばならぬ場合に際つて居るのである、何れ日米問題の解決も短刀直入に出る機會が來るのであらう、これ等もその第三波體の次次地位

には出現せんとも限られん豫め覺悟を要す點であらう。】

それから十ヶ年を三つ合せて三十ヶ年之を大衝動と云ふ、之は人間の一代運命期である及び國家の第一期に於る運命期であるのである。この三十ヶ年の三倍が九十ヶ年で人間の精性科學上に於る活動性存期である、この三十ヶ年は人生中大切の期なのである、即ち一代に於る前三十ヶ年は始元期で修養時代、人間の心身を琢き上げる修養の本、大學の科程を終るまでに三十ヶ年と勉強する、そして人間完全者の資格を造る。中三十ヶ年は中元期で活動時代、大に國家社會に人間振を働かせる時代なのである。後三十ヶ年は終元期で保全時代、人間の終りを全ふする總ての地位資格を造り、人間眞個性の本性生命を全うする、安全に身を平靜な態度に置く人格者たるを要す時代であるのである。で何でも今後眞に社會に活る人間たらんとする人は、先づ二十代より活動する人は二十三四十とウンと年代に働く、それからまた三十代で活動する人は三十四十五とウンと働く、そして自から天性發揮に努めて謬らさず一心不亂にこの年代に大に働くと云ふ必要があるのである。この三十ヶ年に於る年代の順長不順長があるが之は良く解る様に天稟の法則等其他で講述する通りに身を立たたなら宜しいのである。大體此世の中には運命の原理に味く自

分を謬つた所謂世間を儘よと遊んで居たり、横着をしたり悪い根性を以て世の中を通らうと云ふ様な人間がある、この様な人間は決して好運命の來ることは無い、一代を満足に過すことは決して出来ない、立派な終りを全うすることは出来ない、最後の惨めさは一代中の第三波體に必ず生じて終ふ、取返しつかぬ破目に陥て了まはねばならん。依て健實なる思想を有する諸君は何人を問はず、本書を手にならせた諸君はよく運命開拓法の極意を咀嚼してよく活得なし、精々勉強努力を以て自己天性を開き、人間として生甲斐のある人間たらんことを切に勸むる次第である。夫れで人間運命の年代を當嵌て見れば左の通りとなる。

人	運	第	十	年	運命第一小期
地	命	一	百	年	運命第一世期
天	命	期	千	年	運命第一宇宙期

改めて十ヶ年に分解して見れば。

始	第	一	年	目	第一小波體	表兩極陽原性	
元	波	一	二	年	目	第一中波體	裏兩極陰原性
運命の作用に就て							

期體	三年目——第一大波體	表兩極陽原性
中元	四年目——第二小波體	裏兩極陰原性
元波	五年目——第二中波體	表兩極陽原性
期體	六年目——第二大波體	裏兩極陰原性
終元	七年目——第三小波體	表兩極陽原性
元波	八年目——第三中波體	裏兩極陰原性
期體	九年目——第三大波體	表兩極陽原性
十年目	滿波體	陰陽兩極還元性

本圖解を一日一年十年百年千年萬年と應用して觀ることが出来るのでそして總體基元數の陰陽表裏を以て、普く運命を觀測することが出来るのである。即ち時の吉凶禍福相場の高低、勝敗如何或は立身學途、天職性能、結婚和合、事業希望、又は天候變災、時代の傾向等一切の人間得失應用具現して、眞に斯の道を極むることも出来るのである。

それで第一小波體から第三大波體の一より九まで各基元數を活動基元數と云ふのである、終りの

第十基元數を積極基元數と云ふのである、即ち一から九までの基元數は微より細、大より無限に精性發達して眞に止まぬ性を具へて居るので、そして其特質を無限に活かして行くのである、第十基元數は總て物の滿たる何等活動をなさぬ積極體を意味して居る宇宙本體還元數であるのである。一から九までを人臣の活動體とすれば、十は帝王位の活動體を象かすものである、斯うした關係を以て運命原動力は環りくして息む時がない。

別けて第一波體の三ヶ年基元數が第一番に必要であることは前に述べた、人間として世の中に爲すあらんとする修養期であり素地であるので、總て物に對する稚き意味にして、自から宇宙の精氣により醇化妙用よく之を育てよく哺むで行く、またよく悟りを啓く、そうした眞理の本性が無限に表象せられる。それから第二波體の三ヶ年基元數が第一波體より據つて得たる活動機であつて、この活動期如何によつて第三波體終元期にその向背が現れるのである、勿論第一波體に於る苟養本性の良否により活動期にその影響するは謂ふまでもないが、活動機は旺盛なるものであるからまた自から活動の結果を過ることがある、何れにしても第三波體に象れて來るのであるから大に心掛けねばならん、成就するも不成就するも第二波體の活動如何にある、この中元期からよく醇

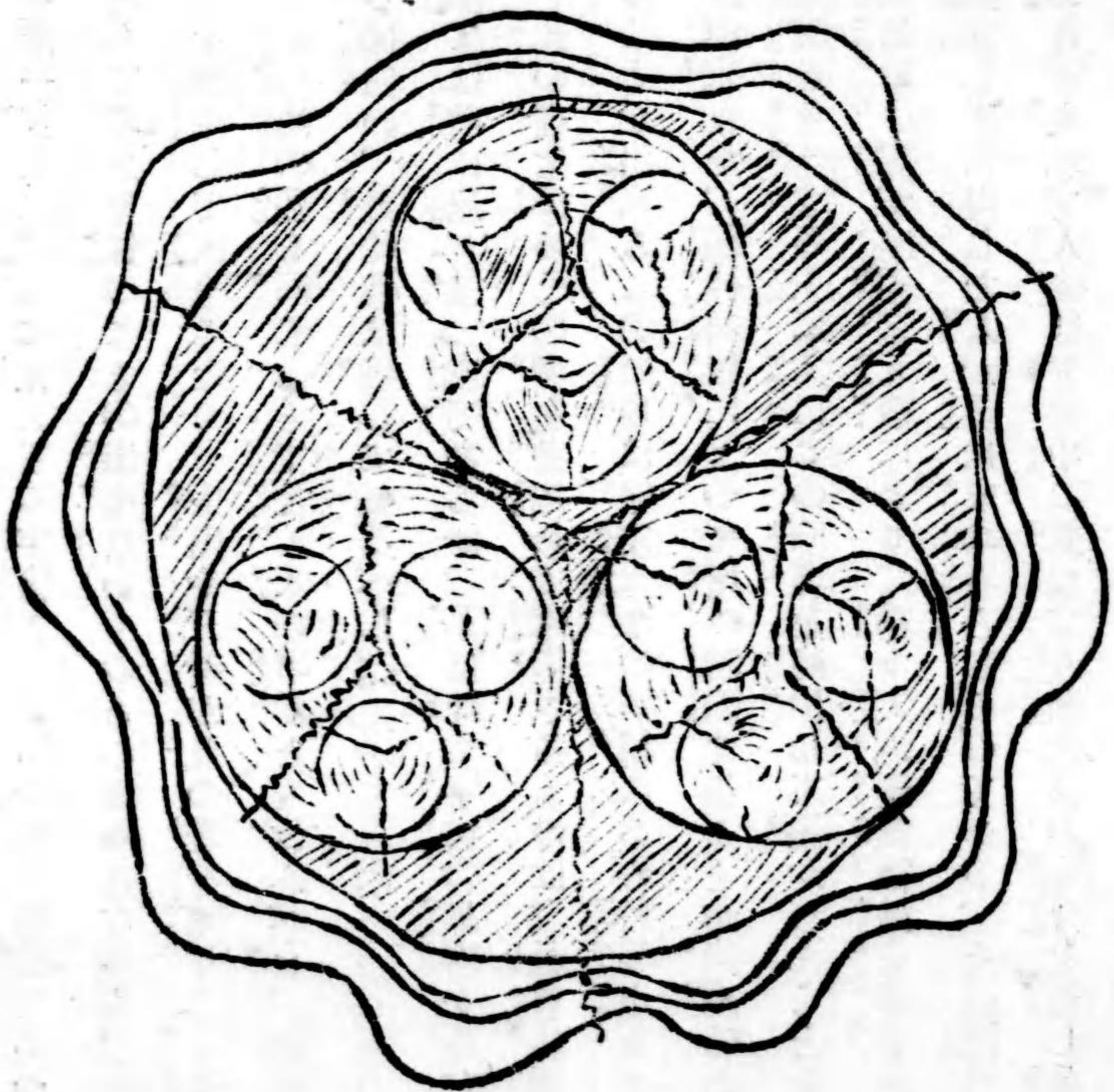
運命の作用に就て

厚の道を踐んでよく綿密に心掛けて来たなら、終元期には何等蟻りなく大に發展して本體環元理に復し、益々良好となるのであるが前にも解ける如く、十年決して平調ではない危険年数は大に慎重を守り之を避けねばならん。要するに一事業或は一職業に就てもその始まつてより、初年と三四年及び七八年十年は最も注意すべき年柄であることは一寸言て置く、内容を熟知せずしてこの危険年数を無事に通つたと思ふと誤りである、三年目次の三年目には何とか現れて来るのである。自然の傾向或は一切の秘密、總て物事は善いこと悪いこと及びその内容の大小を問はず、目論見つゝあること心組まれつゝあることは三基元數、陰陽兩極の理に依つて觀察する時は瞭々前以てよく解る、而し三年目には必ず露顯するものであるから、之を第一透察して斯う云ふ具合で未前に豫防策を講ずると云ふこと、この手段を早くせねばならん。各人間對社會的關係は甚大のものである、或は一家の事に國と人との上に、人と人との對關係に、事業と人との對關係に、斯うした覺悟を川せないと往々取返しのかねことになるものである。

物の發生と活動狀態を現して瞬時も息まざる精性醇化發達的作用

宇宙三基元數化合によれる無限發生力を帶ぶる超絶精性原子本體であつて、前に三原數の意味に

三原子體圖解



運命の作用に就て

就て述べた通りであるが一言せば、目に見えざる宇宙大生命の表現活動體であつて吾人は必ず之と結合せねば、人間として理想を保つことの出来ないものと心得ねばならん。

【三井三菱が此の理を應用して大きくなり、安田や三越が此の理を應用して榮えるのである、また住友藤田鴻の池久原川崎の類も同じことで全く天の暗示とも云ふべき、知らずく原理の印象を深くして居るから面白い、其の他は推して知るべし。】

この精性原子體に就ては前に屢々述べた處であるが、是は總て宇宙の萬物を生む素であつて、宇宙造化の原本である。此の理を極めこの理を應用して謬らざるものは、社會の傑出者として上地位に立ち益々發展することが出来るこの原理は宇宙大法の經緯にある哲學上なり科學上の見地から彌々明識することが出来また、精性科學によつて増々證明することが出来るのである、で諸君は一身上に事業上に天職を全うする上に大にこの原理を應用して往かれんことを望む。

要するに此の宇宙精性原子體が宇宙基元數によりて精々天地絶對微妙分秘されて居る、この運用の妙機にヒツタと適合して活得した人が眞に成功者となるのである、その國に於ては大に發達することになるのである。夫れで人間は世の中に立つて人間たるの本分を盡し眞に活んとすれば、

よく中心期たる十ヶ年に精一ぱいの活動する、その働振りである、解りよく言ば宇宙の大生命であり細胞である處の三原子體が吾人の生命活動を常往精鍊して呉れて居る、この宇宙と人間の間に於る總ての目的事物を何れの道にしる、よく解剖して三原子體による前後の境遇をよく觀察し、之を自己大目的の道程に測度し、宇宙基元數による各波體の原機を活用して行く時は、行くこと一つとして可ならざるはなし成功せざることなく、目的と地位とを造り永遠に自己を布くことが出来るのである。

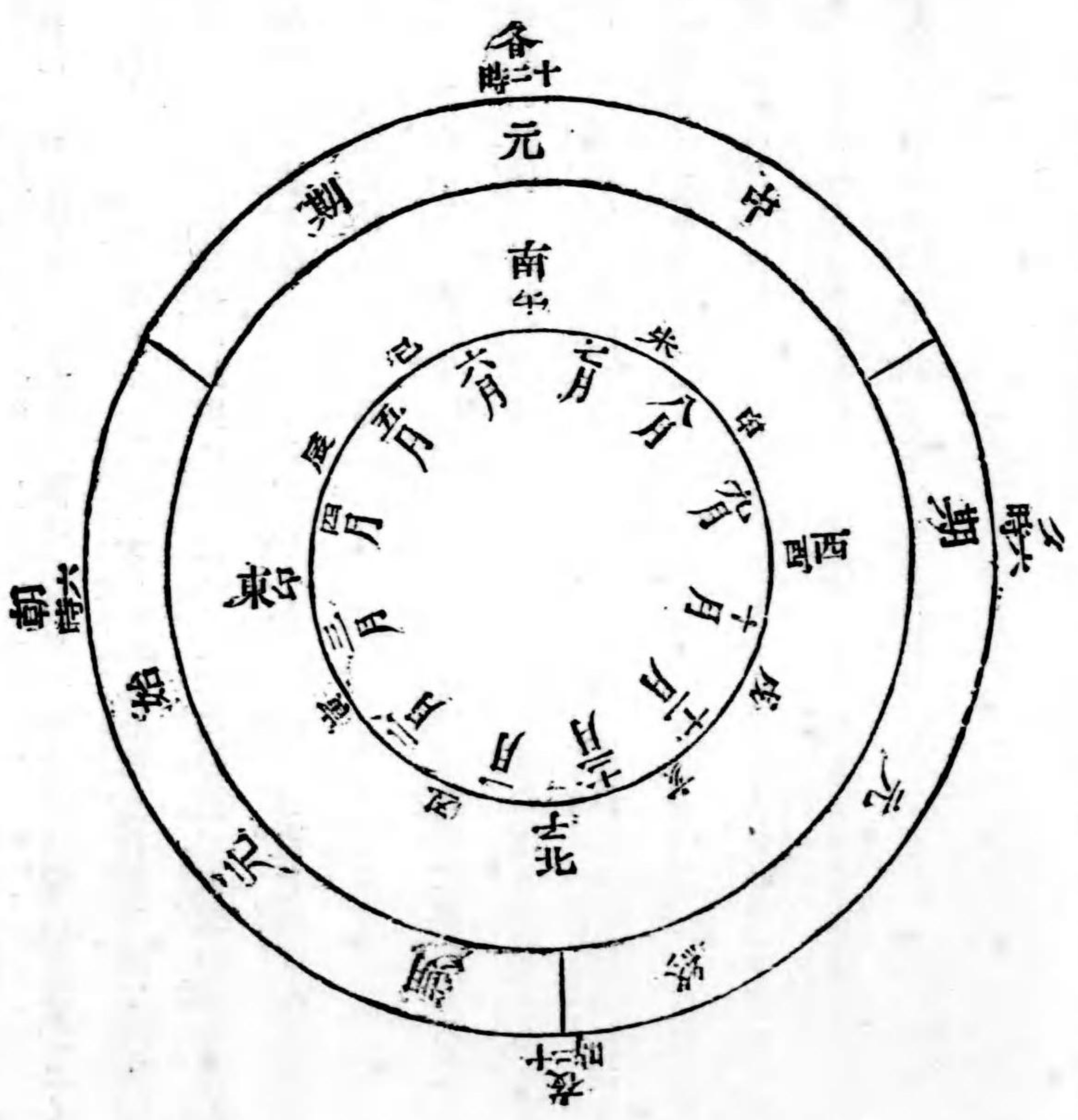
【所謂ナボレオンが吾に不能の文字なしと云ふた如き至言といふべしである、彼は聊かこの活用を圖つだに相違ない、彼は一種の法により、豫言を自からやつたといふことが史傳にある、而し彼程迄に出世した宇宙的な人格者が其の最後の末路は非常に悲惨なものであつた。宇宙大生命である運命原動力の原理を知らなかつた、宇宙基元數の法則を知らなかつたから最後保全の終元期を全うすることが出来なかつたのである。】

此の運命原動力 活用の眞髓に直入つたなら人間として行く安定の道、何れの方面にも應用具顯して眞にその妙を活用體得することが出来る。

茲にこの原子活動體を年時に割當る法を示す、之は後述の多考上掲載して置くのである。
 十二月と一月は宇宙基元數の滿波體で、この間は萬物の收縮したる時とそれから復々發生せんとする境目であるから、所謂世の混沌期である、二月三月四月と五に掛ては始元期であるから第一波體に相當し、宇宙地體の至順により精氣方に開く精性活潑の時期なれば最も大切な時で潑精醇厚の盛ならんとするに任せて三四月に最も人心が浮動し易く、心氣に驅れ易くして種々の事に手を出し失敗者が多く出る、之は自己の歳年の運環によりて生ずる現象である。

【或は不倫亂行を敢て行ふものが多く爲に前途を過るものが多い、種々の出來心無謀人間や罪惡も多い所謂卵の花と云ふて、春期に花と實を結ぶものは草木でもよろしくない、宜しく西の實の如く秋に實るものが宜しいのである、故にこの春の三月四月と及び秋の九月十月には人間の變動のみならず、物價變動高低の生じ易き原機が含まれて居るのである。元來我國は暖國であるから矢張り暖かの春期に生産兒が多くまた死亡者が多い、秋期にも同じ現象がある、それで熱帯に生れたものは炎夏の期に死亡者も多く生産者も多い、寒帯に生れた人は酷寒の時に死亡者が多く生産者も多いと云ふ具合である。】

運命活動年時鑑



運命の作用に就

五月六月七月八月は中元期で第二波體であるから活動力が眞に旺盛の時である、此の期によりて天は陽氣を地の利に布き萬物増々伸長す、稻を始め植物類はこの期に天候がよくないと立派に終結を獲めることが出来る。九月十月十一月十二月は終元期第三波體で總て萬物の收まらんとする還元期である、總て一ヶ年の德行は此處に象れて大に宇宙の道、人間の道を吾人に與へしめる天の恵によりて生物はよき實を結ばんとする、吾人も亦大によき實を結ばんとする、そしてよき種を蒔き新たな宇宙生命に活るのである。

【彼の秋九月に入りて二百十日と云ふ風の厄日はこの終元期の始めに襲來することは恰度第三小中波體と適合する偶然の實例、其の發顯作用は實に面白い。彼の屢々示せる基元數によるを想へば一年も十年も百年も、大宇宙の圈内正然たる運命の矩規に準據して相逢着しつゝあるのは、其の差こそあれ萬物も吾人も一體である。】

第三圖區劃年時鑑を一日に當嵌るも同じい準理に由て行けばよろしいのである、原子體の活用により併して一日一年十年百年の未來を測度して明瞭なる豫言を下すことが出来る、之は斯道に通じたなら至難ではないのである宜しく精通すべしである。

世の中には運は天にありと云ふて自から行く道を阻礙して居るのである、相當學才ある人でも天命とか宿命であるとか運命であるとか言うて、一も二もなく諦めて了う人が多いのが世の常である、之は最も至極であるが而し世の人々はこの運命なる熟語に往々謬られて居る、立派な精神を囚はれられてしもう、恚した譯で宇宙と自己本性に疎くそして斯うした方面の理性に乏しくなるのであるで少しは頭を傾けて見たなら解る。全く宇宙原動力による一生運命期間に大に奮發したなら敢て歳を老たとして悲觀するに及ばぬ、精神の轉換によりて幾等でも家運の挽回は出来るのである、若き人は初めより覺悟して宇宙大生命の起原より發する法則に従ひ、各人の天性を中心として適度の調和を要し理想に向つて進む、宇宙運命の原動力なるものをよく活得してそして強烈なる信念の下に自己天稟の職務に盡し、一家の爲め一國の爲めに身を立て命を捧げると云ふ、深い覺悟を以て天職により進むのである、之が第一人間としての運命開拓の道であるのである。

大體人間は宇宙から下された欲望の集結があつて各個人によりて自からその嚮ふ處が違ふ、人間としての平和は却々保たれない、然るが故に人間は決して一代中平和と云ふ様なことは無い如何なる人も平和でない、あの人は運がよいだの仕合せだの云ふのは單に自分が冀ふその一面を見て

そう自分が斷定してしまふのである。逆もく世の中は宇宙が滿邊の人は與へない人間如何なる人も宇宙と平等である、要するに只人間として天の法則により正しく自己一身を捧げると云ふことが最も大切で人間としての生命でありまた理想であるのだ、天は決して吾人を見捨てないのである、天は人類として進むべき人間としての道を教へて居るのである、天は何物か吾人に與へて居るのである。吾人は其の道に携はるのである、そして人間は眞に生る天の理想に向つて進むのである。天はそして吾人の往くべき道を啓いて居る、吾人の文明は天の道である、されば吾人は自から己性を如何に活かして行たなら宜しいか、如何にして人生眞意義を極め人生究竟の目的を達すべきか。本書一貫の生命は茲にある。人間眞個性に生き宇宙中心絶體本性に入り、天性を發揮する人類至高心性に於る根本の道を極め、社會に貢献すべく大なる生きた仕事を爲さんとする大生命の下に、自己全身を至高天性に捧ぐる之れ一身の爲めなりまた人類同胞の爲めの奉仕の道である、之健全者の道、幸福の道、人生究達の全眞の道であるのである。

誠。に。や。宇。宙。は。絶。對。に。し。て。

彌々微妙の新生命を治布せん

(靈 裏)

人間性發揮の 原 動 力 宇宙の基元數 (現力作用)

前講に於て宇宙基元數なるものを屢々述べたのであるが、爰に最も解り易きそのものゝ表象の本來を解説すれば。吾人が世の中に立つて總ての物を明かに認識するものは數字である、宇宙萬物を統一すべきものは數であつて數は萬物の始まりであるのだ、で森羅萬象悉く數の實體である、宇宙の根本である。彼の天體の諸星辰を統御して休むことなく規則正しく運行して居るのは自然數の道であつて即ち宇宙基元數によるのである、この宇宙に介在せるものは總て吾人一體にして俱に離るゝことの出来ないものである。宇宙間の萬象は絶體數理によりて之を表明し解決を與へるものにして、數はこの世に謬らざる正しき道を教へて居る、人間が法を立て則を布き人間としての行くべき道を尊重する總ての規則は宇宙の數それである、然るが故に宇宙間に存在して居る人間は絶體に惡することは出来ない、宇宙の數は神聖であつて差別を明かにする原動力を有して自から進むべき人間の道を啓ひて居る。而して人間徳行を積むべきを教へ、徳行の爲によりて自

己本性の道を醇厚すべきを教へ、天地正しき運行は人間の行くべき道、徳行の爲に努力すべき人間からその道を誤らず強めて行くを教へて居るのである。数理は天の道と相一致しこの世に活躍人間の根本たるの道である。

【宇宙十大基本元数が無限の活動をして萬物を明かに示すに外ならないので、因つて吾人は理想を以て天の理想と相一致せねばならん。然して、数理に於るその秩序と天の道とは之れ逸すること出来ぬ、故に過ちは人間たるの終生を全うすること能はずして廢滅に等しき境涯に陥る。吾人の道は第一宇宙生命の繋がる数理必然の結果によつて生ずる天性の道に依る。自己本性を悟り天職に入る人間たるの資格を得る則ち人間體業たるの道である。然らば如何にして體業を得べきか、また天性に盡すべきかは之れより順次講述するであらう。

宇宙基本元數圖解 (天地の徳行を象したるもの)

- 第一基本元數 陽元子 天原性 天原性は之れ宇宙萬象絶體の大本で一元を以て宇宙天體を布くものこの基本元數は還元性を象かす
- 第二基本元數 陰元子 地原性 地原性は之れ天の相應よくその特色を現はす天地萬物を容るゝ根原天體系の諸星辰は悉地原性を帶ぶ

- 第三基本元數 陽元子 生原性 生原性は之れ天地和合の宜しきを得て精々増々その本性を象かし天地兩性の徳行を彌々顯現せしめる本性也
- 第四基本元數 陰元子 育原性 育原性は之れ天地萬物を露し地澤天恵の利をよく顯現せしめて息まぬ醇厚の本性を全うするものなり
- 第五基本元數 陽元子 動原性 動原性は之れ天地萬物の本性を能く顯現せしめ利生厚生の道を助めることを自から中心とせる本性なり
- 第六基本元數 陰元子 靜原性 靜原性は之れ天地萬物成りて泰らかにその特質本能を粹し以てその保全を圖らんとする本性を有するものなり
- 第七基本元數 陽元子 發原性 發原性は之れ天地萬物の完全に伸長せるを得て萬物の天地に蔓らんとする精性發達の本性を有するものなり
- 第八基本元數 陰元子 展原性 展原性は之れ天地萬物の本性を合理ならしめんと欲し悉萬皆物を整順して廣く天地に布かんとする本性を有するものなり
- 第九基本元數 陽元子 極原性 極原性は之れ天地萬物本性の顯現を極めその善きを得て天地萬物相互一體得失を明かにする極原本性なり
- 第十基本元數 陰元子 還元性 還元性は之れ天地萬物本性の還元體にして總て能く復歸せしめ宇宙同化享受の妙理を顯現せしめる完全體なり

是れ第一基本元數より第十基本元數は陰陽兩性原子の完全を以て宇宙に微妙治布せられ、宇宙をよく組織し宇宙萬象の特質本性を顯現せしめるの絶體の妙用を以て宇宙保全の道を明かにせらる。天

體の運行は之れ宇宙基元数の一大系統により森羅萬象悉く安全に活動せしめる絶大微妙なる宇宙基元数は總て萬物の本である。此十大基元数は最も大切なものである。この基元数によりて宇宙間絶體の数理を明らかに示すのである。この基元数が普く宇宙間無際限に数理現象を生むのである。数は實に宇宙の表明である、活動の根本である。

第一基元数と第十基元数は共に一體本性を有して居るものにして、第一より第十までの活動機能は之悉還元して息まず第一基元数となるのである。天上天下日月星辰火水金土動植無生物悉く宇宙基元数により循環至醇厚性の道を極め結果を明かにし、秩序整然この宇宙間に顯現することを得て息まないものである。夫れで宇宙基元数本來の兩性を對照して之を観察すれば必ず確然たる能力を發見することが出来るのである。(陰陽表裏とは運命原動力圖解を参照して見られよ)

宇宙基元数を配列して各年齢に當嵌たる表

(大正十年の當り歳を以て配列したのであるから自己本性は何年経ても基元数は變りはない)

第一基元数	九	一	八	二	七	三	六	四	五	五	四	六	三	七	二	八	一	九	〇	九	九
第二基元数	八	一	七	二	六	三	五	四	四	五	三	六	二	七	一	八	〇	八	九	九	八
第三基元数	七	一	六	二	五	三	四	四	三	五	二	六	一	七	〇	七	九	八	八	九	七
第四基元数	六	一	五	二	四	三	三	四	二	五	一	六	〇	六	九	七	八	八	七	九	六
第五基元数	五	一	四	二	三	三	二	四	一	五	〇	五	九	六	八	七	七	八	六	九	五
第六基元数	四	一	三	二	二	三	一	四	〇	四	九	五	八	六	七	七	六	八	五	九	四
第七基元数	三	一	二	二	一	三	〇	三	九	四	八	五	七	六	六	七	五	八	四	九	三
第八基元数	二	一	一	二	〇	二	九	三	八	四	七	五	六	六	五	七	四	八	三	九	二
第九基元数	一	一	〇	一	九	二	八	三	七	四	六	五	五	六	四	七	三	八	二	九	一
第十基元数	天	位	還	元	数																

【附言本表は大正十年の當り歳により當嵌たのであるから各年齢に相當する本人の天運基元数である、仍てこの宇宙基元数は絶體動かすことは出来ん一生の原子體である、夫れ大正十一年に

生れた人は第一基元數に相當し大正十二年生れは第二基元數に相當し大正十三年生れは第三基元數に相當する以下推して知るべし。】

宇宙基元數に當る各年齢を示適したのであるが各年齢の人々の持前たる、基元數は如何なる妙用を顯すかこの基元數によりて各自の特質性能は素より自己天職、希望、進退、交際、關係及び一代の盛衰、毎年の吉凶可否その得失等自から現れ未前に之を識り妙ならず、吾人人生の道に益すること際限がない、實に斯の道を觀察する能力を増進したなら如何程人間として重寶であるか解らん、何人も宜しく熟考すべしである。次にその方法の概略を解き各基元數所有者の人々に御参考に供することにす。

數は之れ萬象の基にして

宇宙空間絶對の眞理を現はす

(靈 裏)

人間性發揮の 原 動 方 天稟の法則 (體業の根據)

第三基元數酉の年の創刊に因んで面白い歌を左に掲げるから味つて下さい。

天地の、ひらけぬさきに、うとふらむ、

たまごのなかの、鶏の聲

吾人がこの世の中に生れ出で呱呱の聲を揚て凱歌を奏するは、既に此の世の中の人間たる資格の勝利者を意味するものである。未だ天地開けぬ母の胎内に於て自然に養はれたる身體は人間と云ふ勇しい関の聲を揚て、そしてこの世の中に立つべく天の教へである、人間のその産聲は他の動物界のそれに見ることが出来ないではないか、人間は已に天と共に至高の道理を明かに辨へるべき資格が與へられてあるのである。過現未來に轉る大生命の中に人間は人間としての天から與へられた道がある、この世の中に生れ出た人間たる生きた機能を以て天に盡すべきを教へて居る、その道は之れ吾人の體業である、天性發揮である、乃ち宇宙基元數なる天稟の法則に依て立ねば

ならぬことを教へて居る。

未だ天地の啓けぬ時から鶏は鶏であらねばならぬ、天地を容るゝ彼の丸い卵の現在を見たなら何であるか解らない、彼の卵の小宇宙の中には鶏を生み出す原生物が宿られて居るのである、小宇宙の中に純細胞が充ち満ちて居て、永き過去と永き將來によつて生み出される大生命の中の鶏は何等人間の活動と變りはない、卵と云ふ天稟の法則の中に同じ生命を繋ぐことが出来得るのである。

酉の歌は實に宇宙間進化の理と無限大に包まれたる、天性の發揮振りが現れ、將來の聲がありありと響て眞に未頼母しい力ある歌である。

【酉の序でに話したいことは、元來この鶏なるものは日本の國民性を現はして居て實に面白い愉快な鶏であると思ふ、彼の東天紅を叫ぶ時を告るに誤らない眞面目な忠實なそして高い處に上つて調たがる鶏である、自から餌を喰うに雌鶏を呼ぶ其の間は自分が喰ない同時に喰る同情心は人間以上だ、そして彼等は不時の變災を豫告することを屢々實驗したことがある、所謂靈覺であるこれ人間以上だ、飼養家の不凶をなすことを報ずる火災とかその家の突飛な出來事を豫知せしめ、

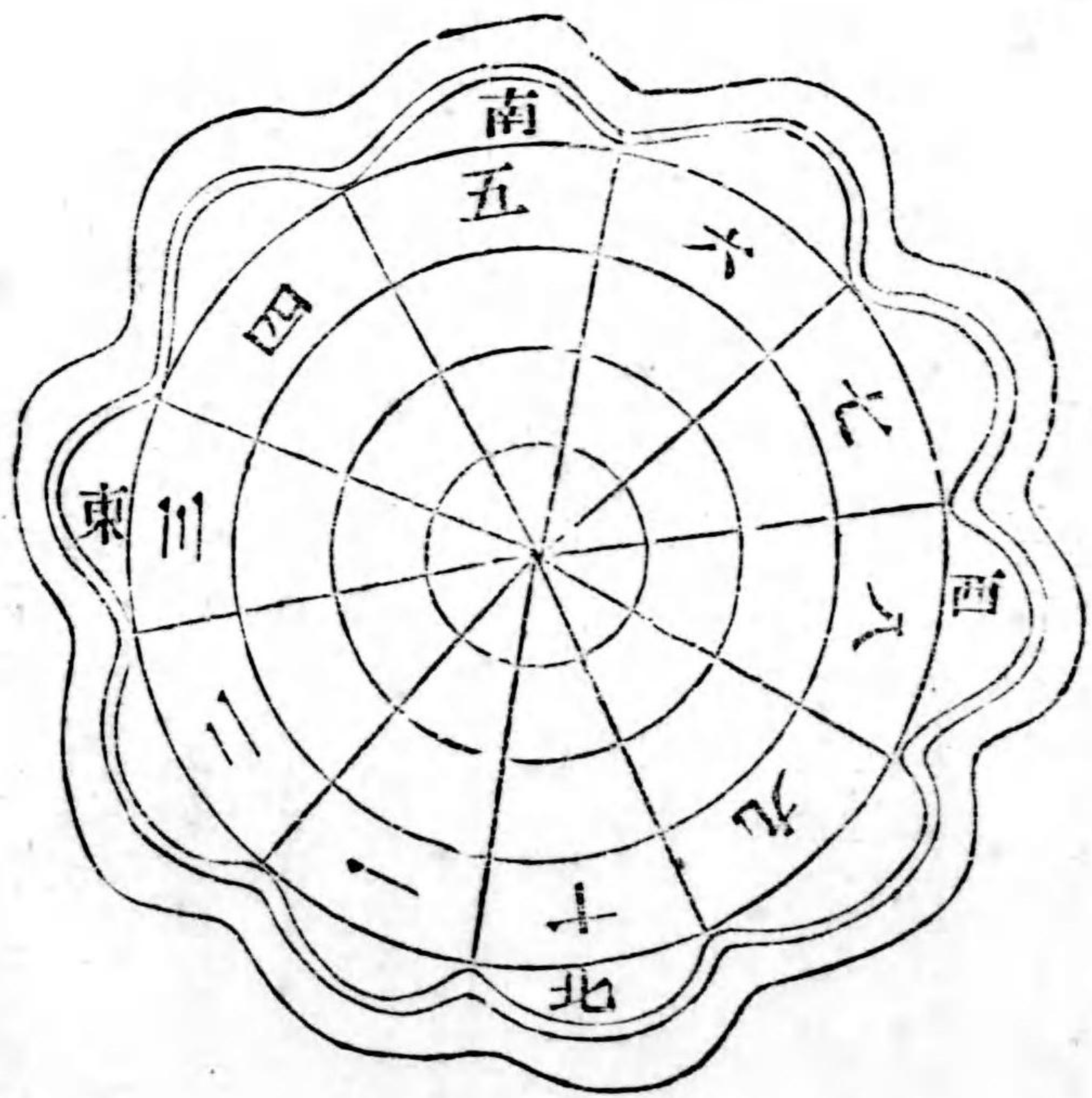
また自からの危害を前知して誤らないことがある、予輩は雞なるものゝ心理状態に就て研究中であるが彼の昔より、靈鳥として知られ天の岩戸開きの神代の昔から遠くある一番最初の靈鳥である、日本人が食膳に向つて箸を持つのは懼らくこの鶏に倣つたかもしらん鶏の上下の嘴で行儀よく喰るのは東洋人種の特長である。それから西洋人の喰るのは獸類と同じ所謂掴み喰であるホークとサヂと手でやる恰度獸類に倣つて居るからして國民性も野獸主義で、物質科學を尊みデモクラを稱へ侵略主義を事とし壓制肌を有して居る、日本人の如く同情心や道義心に乏しい、この點は外國の及ぶ處でない、恰度その日本國民性が鶏に似て居り西洋國民性は獸類に似て居るから面白いではないか。

日本では酉の年は太陽に象つて居るのは昔からの暗示である、概ねこの酉の年の人は權謀術數才智才略に富んで居るから、お喋も好いし驅引も巧い、政治家外交家事業家には詭向である、學才と金力二つを全うするそうしたその酉の年では勿驚大元老の山縣や大隈や西園寺は之に當つて居るそうなる、其他實業家で奇抜の成金振を活かして居る者もある。】

人間一介此の世に生れ出て人間たる本分を盡すべき宇宙基元數の所有者たる以上は如何なる人も

必ずや人間一個の體業を保持せねばならない。若し人間として何等なすことなく浮游の徒となつて居たならそれこそ大變人間として生甲斐のない人間として生命を全うすることの出来ない、天の道に脱線したる人類としての廢滅者であるのだ、天は必ずや没人道の人間や社會を毒する人間には利るに天の刑罰を與へて尊ひ人間の終生を縮ませつゝあるのである。徒に動き濫に進むも天の道ではないことも解つた、そこで吾人は進むべきに天稟の法則に據らねばならないこれが健全なる人間の道である、彼の植物上に於る草木でもその土地により生育を異にして各々その適不適があるではないか、地球上寒暖熱帯と特種よく生伸するの道は決して天は何れの地も見捨ない天地自然の法則であり宇宙基数の特質の然らしむる處である。此の世に竭すべく吾人には天は必ず何物か與へて居る依て得たる天賦の體業は必ず之を遵奉せねばならない。この體業が何より貴ひ人間第一の世の中に立つ上の資格である、生命の道である、そして忠實なる體業は自己本性の發揮を顯現せしめ益々人間眞價を昂め宇宙實在天の理想を全うする所以のものであるのだ。この圖は宇宙を象る精性原子體の胚胎作用を現はしたものであつて、斯う云ふ位置に於て各々宇宙間の經緯を謬らす世の中に盡すべく一體の努力を用ひて居るのである、各自その本性を以て各

精性本體統一圖解



社會に盡すべきは人間のみではない。宇宙間實體同胞悉く必然の勢で、各々その盡すべくを具備せられ偉大なる能力を顯現せしめ得る道を象かした宇宙運命の潛勢力を示したのである。

【抑も人間は體業として必ず一つの道を描むべきを教へて居る、宇宙基元數の精性本體は人類の最道徳にして純眞天命の極致である、自から行くべき道に向つて神聖を侵してはならない、天の本性によりて益々眞個性本性を發揮するが宇宙本體一つの道であるのだ。君臣、父子、主従、夫婦、帶業の道は謂ふまでもなく、専門家がお門違ひのこくをやるとか、若き學生男女が逸樂に耽るとか、また一國の大臣が株に手を出すとか、宗教家や教育家の墮落を見るとか、武官法官及び官吏等の商賣根情や賄賂をやるとか、博士が肩書を澤山持つとか、其他是等の類は自から精性本性を謬ちたるものである。】

宇宙基元數と精性本體は宇宙間そのものであり宇宙間と同一で、宇宙間と吾人一體で之を鑑別することは出来ないのである。その本性を謬らすよく合體して宇宙を組織し精性循環して進化發達の妙理は止まず、總ての萬物吾人に永遠の幸福を與へて居る。

宇宙三原子體に於る物の發生は天地萬物一體であつて、宇宙三原子體は間斷なく宇宙運行の精性

によりて醇化發達の妙用を顯現せしめて息まないものである、故に吾人の天稟の體業は三原子體の力によりて精々發達せしめることが出来るが、同國體二なきが如く必ずや吾人の體業も一つを用ゆるのである之が宇宙の法則である。數多の體業も有して、得々たるは三原子體の妙用に悖る依て宜しく體業一つを選むことが必要である。

【卑近なる例ではあるが、大海に棹して渡航するにも、山に登るにも鑛山を採掘するにも目的の途は一つを踐むのである。二兎の兎を一度に追へば二兎ながら捕へぬためしと云ふ通り、吾人の食膳に珍味の御馳走がある筈で挾んで食する時、その挾んで居る時また他のを同時に挾むことはできんと同じ道理であつて、御馳走が澤山あつても人間は宜しく一意専心なれよ、精神を一つに持てよ、専志専念なれよ、さうすれば必ず成ること成らざらんと云ふことはない、一切の成功も一切の成就も一事一念の奮闘努力によりて來されると云ふことを教へたのである。】

天稟による體業の選定法

第一基元數

年鑑	性質	境遇	體質	主業
初年 よし	品格あり温順なれども身に不相應のことあり 内心苦勞あり自己意志に向つて進まんとして損する事あり 義理に厚くして偏重することあり我儘を慎むべし	家業豐富の人は専心に始めを慎めばよくなるべし 家業乏しき人は怠慢に流るにより注意すべし 自主業は一意勇邁して名を爲すものとす	心性質の人は學術方面 營養質の人は實業方面 筋骨質の人は技工方面	學術 教育 宗教 文武官
中年 悪				實業 工業 會社業 海運業
晩年 よし				技術 手工 土木 藝術

第二基元數

年鑑	性質	境遇	體質	主業
初年 悪	人格あり表面實直に見れども同情に溺易し 意志あれども變じ易く慢心に陥む癖あり 自己一念貫徹せんとして我儘増長慎むべし	實業豐富の人は散し易く注意すべし 家業乏しき人は獨立克己よく功なる 自己主業は専心貫徹に努むべし	心性質の人は學術方面 營養質の人は實業方面 筋骨質の人は技工方面	學術 文武官 政治家 醫學
中年 よし				實業 殖産業 會社業 市場業
後年 あし				技術 手工 土木 藝術

第三基元數

年鑑	性質	境遇	體質	主業
初年よし	大人の風を備ふとも小人根情あり 心も廣く才能あり上下共に親みあり 我儘あり決斷心に乏し注意すべし	家業豊かの人は始めより眞面目に努めてよし 家業乏しき人は大に努め上げ次第に功あるべし 自己主業を體現して名實揚るべし	心性質の人は學術方面 營養質の人は實業方面 筋骨質の人は技術方面	學術 政治家 文武官 教育家 實業 海運業 銀行會社 殖産業 技術 手工 音曲 園藝
中年よし				
後年あし				

第四基元數

年鑑	性質	境遇	體質	主業
初年よし	品格あり發明の氣に富む物に敏きことあり 決斷心あれども短氣にして自から大事を過ることあり 自己の意を主張して損することあり慎みてよし	家業の富る人は始め散し易し注意すべし 家業貧しき人は苦勞あり落着す一心努べし 自己主業を變易く大に慎んで後大によし	心性質の人は學術方面 營養質の人は實業方面 筋骨質の人は技術方面	學術 政治家 文武官 外交家 實業 工業 造船業 鐵工業 技術 手工 美術 藝術
中年よし				
後年あし				

第五基元數

年鑑	性	境	體	主
初年 よし	質	遇	質	業
中年 悪				
後年 よし				

學術 文 武 官 宗 教 醫 學
 實 業 運 輸 業 會 社 業 殖 産 業
 技 術 手 工 美 術 藝 術

心性質の人は學術方面
 營養質の人は實業方面
 筋骨質の人は技術方面
 家業の豊かの人はその家業を大切に守るべし
 家業の貧しき人は最初辛苦す大に勉勵すべし
 自己の主業を努めて守り行かばよろし
 氣風は高尚なり外面温順なれども心内剛直なり
 決斷心乏しく屢々迷事あり意志あれ共散し易し
 總て克己心を養ひ對外關係に追々よろし

第六基元數

年鑑	性	境	體	主
初年 よし	質	遇	質	業
中年 悪				
晩年 よし				

學術 教 育 宗 教 醫 學
 實 業 殖 産 業 鐵 工 業 市 場 業
 技 術 土 木 手 工 藝 術

心性質の人は學術方面
 營養質の人は實業方面
 筋骨質の人は技術方面
 家業豊富かの人は晩年不可大に慎むべし
 家業乏しき人は専心努め上下大によし
 自己主業固守し始めより精々努上るべし
 柔順の方品格もあり片意地にして薄情なり
 思慮に乏しく前後を誤る一方に偏する癖あり
 物事に聰かすぎて失敗あり眞面目を以て行べし

第七基元數

年鑑	性 質	境 遇	體 質	主 業
初年 よし	品格あり實質を帶る聰明あり 外面は謙讓なるも内心剛情なり 克己心決斷心あれども短直にして身を誤る	家業富る人は實直に努めて太によし 家業乏しき人は自から迷ふて失ふことあり 自己主業専心守りて行くをよしとす	心性質の人は學術方面 營養質の人は實業方面 筋骨質の人は技術方面	學 術
中年 よし				政治家
後年 あし				文武官 教育家 殖産業 運輸業 鐵工業 手工 園 藝 土木

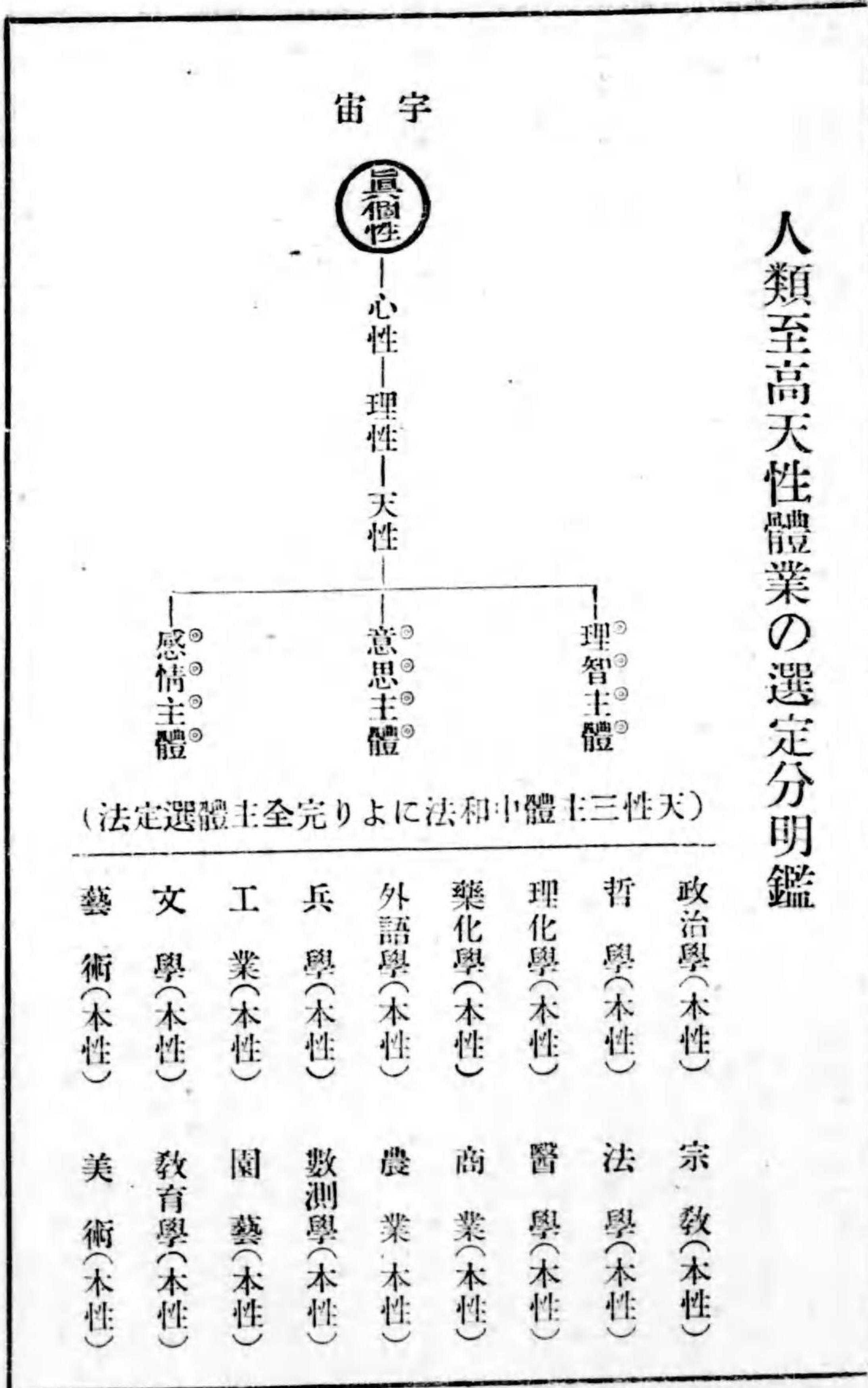
第八基元數

年鑑	性 質	境 遇	體 質	主 業
初年 惡	溫順にしてよく克己心に富み内心固し 剛情我儘あり意を張るよろしからず 物事薄弱にして自から意思を誤る	家業富る人は益々勵みて大によし 家業乏しき人は苦勞失敗を排して進んでよし 自己主業に勉めて追々よろしくなるべし	心性質の人は學術方面 營養質の人は實業方面 筋骨質の人は技術方面	學 術
中年 よし				殖産業 會社業 海運業
後年 よし				教育 宗教 醫學 手工 土 木 藝 術

第九基元數

年鑑	性質	境遇	體質	主業
初年 あし 中年 あし 後年 よし	内心弱く發達氣象に乏し大に精勵すべし 意思強くも散し易く交際を慎むべし 表面實直眞面目なれ共感情に身を誤る	自己體業よく慎む人は後大によろしくなる 家業乏しき人は苦勞を排し勉勵すべし 家業富る人は失敗しやすし大に慎むべし	筋骨質の人は技術方面 營養質の人は實業方面 心性質の人は學術方面	學術 實業 技術 殖産業 手工 鐵工業 音曲 園藝 文武官 政治家 教育家 會社業

人類至高天性體業の選定分明鑑



以上の諸表は各基元敷所有者の大體に於る天稟の體業であるが、此の間自から天賦の職分は百種千差萬別である、而し、官吏實業の大小を問はず理想を示したのであるから、境遇の如何を問はずして自から誤らず漸進主義で進むがよろしく、家業に就て従來通り大に改めて發展すると云ふ意思あれば、大に家業を勉勵するも可なり、若し家業が自己本性に適合せぬとすれば宜しく進んで至高天性體業の選定分明鑑により着實なる初一念の體業を擇んで専心進むも可なり、體業たるや宜しく自分の精神と體と時との中利を圖りて、此の體業は自己主體適合すると斷定したなら如何なる障礙を排しても目的職業に進んで往くと云ふことは大に必要である。必ずや位置と身分とを誤つてはならない、艱難辛苦は其の時の試験である、名遂けて功なることを得る關門たることを深く頭に銘して懊惱挫折せず邁進することである。學術に於ても中學普通教育を終る迄に自己の體業を大に講究して置く必要がある、之は自分の頭と先輩の跡を温ね父兄良師の意見にも徴して、精神と體と時との中和を誤らず、自己本性の發揮すべきを覺悟して前以て専門的事蹟の徑路を直して能く進むべきである、濫りに時流に追れ、あれこれと體業試験に自己本性を誤ると云ふが如きことは大に慎まねばならん、初一念が一當大切であるのだ。以上の表は一ヶ年を以て生れた人

の數を當嵌たのであるから、自から一ヶ年内の始中終元期により生れた相違があるので、詳しくは自から生れたる時期によりてよく考へられたし、主業、體質、境遇、性質、等の特長短をよく鑑みて、各自所有の基元敷内容と至高天性體業選定分明鑑を吟味して、よく活得なし一大決心を以て進む上に於ては何ぞ其の効が顯れずにはならない。自から守るべきその秩序を誤り體業を謬つたならば一生人間としての眞價を現すことが出来ようか出来ればせぬ、何でも自から自己の印象を深くするものを天稟の主業として方面を變ぜず一意専心、研鑽努力、奮闘勉勵すべしである、畢然の結果は國家社會を益する名譽の桂冠を得ることが出来よう。

【人間一代の危険年代を左に掲げて御参考に供すべし、最も之は宇宙基元敷に於る結果の突發の年代であるから各人を通してよく注意すべき年なのである、往々世間にはこの年代に一身を誤り延て一家郎黨を誤ることがある大に慎むべしである。】

各人の	
外	内
り	す
厄	年
五	七十六才
十	八十五才
十四	九十四才
二十	百三才
二十三	
三十二	
三十七	
四十九	
五十八	
六十七	
七十九	
八十四	

嘗て前後の歳をも心掛る必要があります

代年意注

く招ら	か自り	よ内
年	厄	

一才	十才	十九才	二十八才
三十六才	四十五才	五十四才	六十三才
七十二才	八十一才	九十一才	百一才

同じく前後の歳をも心掛ける必要があります

右の表に就て解説せば即ち外より襲來する年代と云ふは、天災的不意の出來事及び他人の危害に遭すると云ふ様な對外關係に就て大に自から警戒すべきものとす。また内より招く年代は自からして不義慾情に驅られるとか、病災に遭とか、輕舉妄動に出で失敗墜跌困難に陥り易き表徴の年代なのである、で孰れにしる公難と私難を問はず諸般自戒不注意の結果生ずるものが多いので妄りに身體を決すると云ふことは大に慎まねばならん、最初は僅かの出來事で一生の禍根を貽すと云ふことが在りがちのことである遂には人生永遠の目的を達せず保全期を失ひ、自から天命を全うすることの出來ない人が澤山ある、異に若き青年男女は情火壓へ難く山氣を出し之が爲に一代の方針を誤りて身を失ふ、人間眞價を活かすこと能はず終生を悔る人も多く之等大に戒心をなし、

不殃の惡魔に魅られず、人間眞個性に活き人生永遠の眞の幸福を求めると云ふ覺悟がなければならぬ。内に外に自制自警克己不屈總ての邪惡を排除して立つ上に於ては、外來凡ての變災に處して大なる過失を得ず安定を期することが出來得る以上注意年代は處世上最も必要心掛くべきものである。

天は夫れ自身の歸嚮にして

よく活得する人は偉績顯る

(靈 裏)

人間性發揮の原動力 富力者の道 (富を増す資格)

正貨と云ふ語は實に力ある言葉である、我が國の輸出入の超過と云ふ數字は國家の前途消長如何を示す最も注目すべき數字ではないか、畢竟するにこの正貨ま云ふものは一國一家の盛衰を支配する、怖ろしき力あるものである。見よ今期の大戦亂は金の爲に勝敗を決したではないか、頑強なる獨逸も金の缺乏は遂に兇を肌がしむるに至つた、流石の獨逸も物質の缺乏には如何ともす

富力者の道

五七

ることが出来ず遂に軍門を降たのである、獨逸は實質には勝ても金力に敗たのだ。要するで最後の争ひは金力である、國力の充實と云ひ、國運の發展と云ひ皆之れ、健全なる精神と、健全なる體力と、健全なる金力とに外ならない、別てこの世の中が開ければ開ける程金の必要は益々生じて來るのである、世界の國際關係が頻繁になればなる程金の必要が生じて來るのである。堂々正義を口に人道を解すと雖も要は我利を事とし私腹を肥さんとする野心満々たる算盤士の彈き方である、その割り出されたる本位は何かと云ばその心底は自己の利益を得ようと云ふ動機による出發點に外ならない、世界何れの國か擧て皆然りである、獨英佛米、殊に米國の如き今日著るしではないか、世の中に正義人道と云ふ美しい名を解剖すれば實に油斷のならないものが多い。【彼の日米關係の容易に解けない八ヶ間敷排日問題は鹿爪らしい人道問題から割出された、勝手に極まる彼等の寸方である、何ぞ夫れ易々として甘受することが出来ようや、十數年來の彼等の我儘は吾國民として決して認容することが出来ないものがあらう。殊に太平洋の霸權を握り東洋の自由を獲得せんとする彼等満々たる野心は米の勢の然らしむる最後の手段であるのだ、亞細亞大陸の殊に西比利亞に手を伸し種々大計畫の下に協定を重ねて居るのみならず、支那に對しても大

なる野心の下に日本を掣肘せんとする振舞はそして目先の明るい奴には資金も貸せよう物質も供給せう、援助を惜まぬと云ふは彼米の遣り口であるのだ、米は金の戦争をして居るのである、頭の上らない露西亞や支那に何億と云ふ金を貸附て倒さうと起さうと自由である、さうして戦争では容易に取れない露や支の領土を一兵殺さずに高枕の晝寢で侵略主義をきめこむ、斯うした米は金で世界一を振廻し、歐洲から輸入した機械力の應用は本家も及ばぬ有様であると云ふことうした一切萬事金の力で押通さうとする口先許りで、體裁のよいとどを云つて居る内幕は實に怖ろしい、斯うした危険極る東洋の緊要なる地位にある吾國民は眞面目なる對度を以て覺悟せねばならないことであらう。】

凡そ現世界に活る人間として國と國と人と人ととの闘争は免れ難い數であらう。過去に於ても未來に於ても争奪戦弱肉強食と云ふことは止まない、さうして見ると單に平和と云ふは畢竟するに一時の休戦に外ならない、吾人は新たに新たに、斯うした準備が忙しいのである。

嘗て佛のナポレオンが宿營に於て一も金二も金三も金と云ふた、副官の曰く閣下は金々と被仰るがそれは何ですかと恐れく尋問した、ナポレオンの曰く先達つものは金ではないか、百萬の軍

を動かす力も大きい大砲や大きい軍艦を動かす方も腹が減つては戦争は出来ないのだと言ふたさうな、實際兵隊軍器糧食を大きく動かさうと思へば第一金である機械力と金力とあつたなら何も怖るゝことはない、怒うした戦争の終局は金である。日本は大和魂を持つと雖も西洋にもそれく國の魂がある、要するに愛國心の固りである、各國の熱烈なる愛國心は大戦亂の結果で解つたではないか、如何に愛國心があつても武器や兵糧が弁實して居なくては今日の戦争には容易に勝つことか出来ん。昔でさへもナポレオンやビスマークや豊臣秀吉や徳川家康等の英傑が金と云ふものを着眼点においたことでもよく解るのである。

黄金萬能と云ふことは今も昔ら變らない金は總てに於て力強きものであることは世界の傾勢の既に示されつゝある處である。最後勝利の前には國際條約も正義人道も只空文の空語に過ぎないのである、世界と對當して行く世界の趨勢に列して行くと云ふ上に於ては優勝の地位を占むると云ふこと之れ國家の富強を圖ると云ふこと、即ち國內の充實と云ふその努力が必要であるのだ。

【彼の萬國大會議で日本委員の黙緘に終つたと云ふのも矢張り國力の乏しいと云ふことを痛切に嘆じたと云ふ、物質力の權能振に壓せられたと云ふことも原因があらうと歸つてからの話してあ

つたさうな。日本にも戦争のお蔭で大分金が入つたようだが、また近年は輸入超過と来て居るかから金も世界に後廻しである。元來日本には幾等の金があるかと言へば先づ戦争のお蔭で七千萬同胞の多數の中で十五億萬圓を頭に五十萬圓以上の財産家か七千人餘りださうな十分の一にも足りない。一萬圓以上の財産家が百五十萬人で之も六十分一である、こうして見ると吾人同胞の大部分は貧乏人である、吾人舉つて貧に泣き饑餓に慟ふるものが幾百萬あるか目下の吾國の現状は憂慮すべきではないか、種々労働問題や階級問題が叫ばれるこれ等も研究問題である。昔から云て居る世の中は貧者徳者苦者樂者用心せねは無茶苦茶と、國力の充實と云ひ國家の發展と云ひ要するに舉國一致の大努力にある、大に政治家資本家の頭を要すべきである、即ち政治經濟教育宗教の根底を極め立國の大本に基して、大に興國的産業政策の大樹立に努力する、目下我國の比較的財源の餘裕のある時に善良の道を講ずると云ふことは吾國將來大に期待すべき健全福祉唯一の道であるのだ。殖産興業とか海外發展と云ふ様なことは益々大に必要であるが、目今彼等の道を啓いてやると云ふが目睫の急である、決して吾人は四圍の状態からして内に外に高枕で安臥して居ると云ふ場合ではない、大に講究せねばならんこれはどうしても資本家が目覺ねば駄目である、

我國の現状は何處であらうか總てが寒心に堪えないではないか。

黄金萬能主義を謳歌して立つ現今の世に經濟戰の著るしき今日金の憧れとなりて、眞に人心退廢萎靡したる今日、予輩は金なるもの、拜金宗を好まぬのであるが、而し現代の實社會を渉る上に於ては是非必要である、一國の大事を決する上に一國の伸長を圖る上に、一國の富強、國家の發展に之れ悉く金の争ひである國勢の扶植であるのだ。小にしては一家を起さんとして日夜孜々勉勵するも之れ亦金なるものを獲んとしての爲めである。

金を卑しむ時代は已に過去の昔のことである、否封建時代の昔でも金の要求を痛切に感じた安田善次郎翁の逸話があるではないか、金なるもの、貫目は今も昔も變らない、殊に世界の列國と肩を並べて行く、世界的地位にある日本が世界と行動を共にせなくてはならない今日物質の力を竭たなくつてはならぬ、斯ほどまでに金が物を云ふ時代である。

「基督は『富るものは賤し』と云て居る、宗教家や道學者も黄金は之れ人類で人間の粕であると云ふて憎惡して居る、土芥の如く忌嫌つて居る、さうした先生達も自我宗の宣傳には汽車にも乗れば宿屋にも着く、今日の各宗派の管長選舉にも金と云ふ丸いものを費さなくては地位に就く

ことの出来ない」と云ふそもこの時節柄ではないか、口に固苦しいお説を立て居ても妻子を迎へは酒淫にも耽る、これが此世の倣だと云ふ多く現代宗教家の遺口である、さもあるべしか。さうして見ると深山の中の仙人生活や行者ならいざしらず、この世の實社會の中に蠢動する上に於ては金と云ふものは必要最も大切のものでなくてはならぬ。要するに今日喰に食なく着るに衣なく、使に資がなかつたならば、自から禮節も素れ人格も損する。これが世の中の弊である『貧すら鈍する』何んな伶俐の人でも貧乏すれば食の苦みから頭が上らない頭腦も亂れる、かうなると『富るものは賤し』の反對になつて来る、各宗ともに死んだ人の戒名を附けるに家柄と布施の甲乙でその故人の尊重を現はして居る之れ『衣食足て禮節を知る』と云ふ支那聖人の言つた通りで金がなくては難有味もない時節、宗教家の詭辯も甚だしいと云はざるを得ない。また大きい神社や寺院を建る後要するに金である。かうした金の世の中に元來現代の宗教家はお經で眠つて居るよろしく目覺むべしである、深く現代實社會に立入つて考へて見るもよからう。この世に罪惡を犯すものは何であるか、この世を濁すものは何であるか、この世の苦しみは何であるか、それが固より金のゆへであれば金なるもの、時代的根本原理を究めて、金でも平等に撒てやる方法、社會萬遍

の歡び善の導き、意に安するその聲は聽ては神佛照攬遊ばす現代的濟度の道を講ずるか第一番の役目でありまた宗教家としての難いことはなからうと思ふ。人に強られたり姑息的宗教心では駄目である、現代のこの紊れたる心靈界に對つて救はんとするものは眞に國家社會に活んとする大宗教家でなくてはならぬ。

千部萬部の經文よりも私しや一分の金が可い。

四百四病の病ひより貧ほど辛いものはない。

金は阿彌陀ほど光る。

(俗 語)

今や世を擧て物慾問題に驅れて居る之等の總ての問題は大に研究すべきものである、素より金なるものは容易に得難い日々孜孜營々と働いても悲惨なる境遇に沈淪して、その社會懸隔の甚だしき況して生存競走の激しい社會問題の八ヶ間敷今日種々の主義者を出す、自然の時弊とは雖も宜しくこの缺陷を補ひ救濟の道を講究するは口下の急務である、堂々口には立派なる事を言つても一身一家の獨立も出來ず子弟教育も満足に出來ない様な人間は却て國家を危うするものである、此際予輩は金なる問題に就て之を識すに最も大切なる事柄として此處に特に富力者の道とはと云

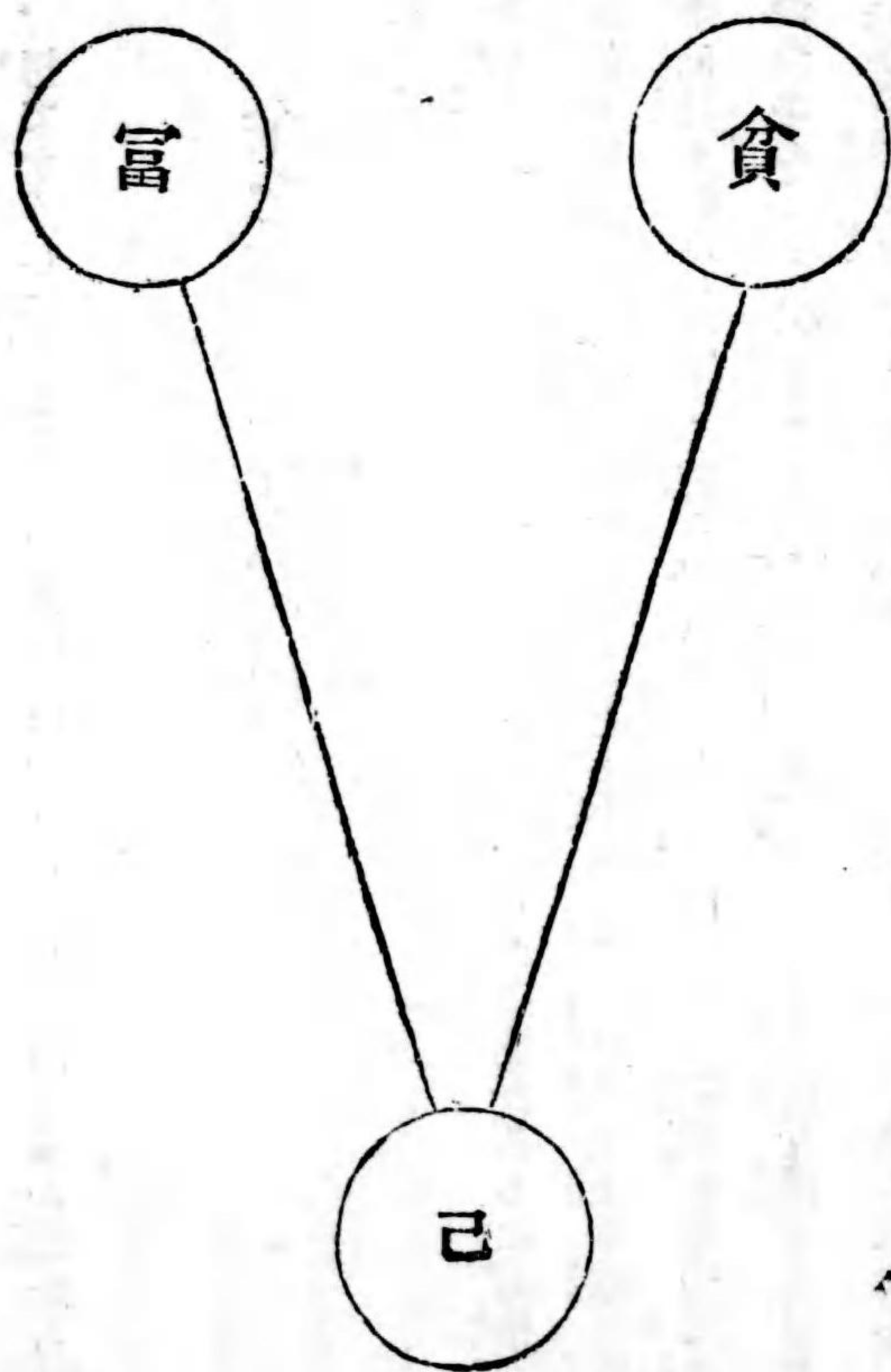
ふ題を選んだのである。つして貧者の一員として、社會の一員として、現代の一員として、大日本帝國の一員として立つて先づ第一飢たるものに食を與へよの見地から、金なき者の金を造るべき方法を講ずるは第一の手段であり、また緊要問題であるのだ。

往々世の中には精神的物質的に、公共事業、國家事業、救濟事業、教育事業、これ等に盡さうとする人に對し、あの人は名を賣る爲めとか己を利する爲めとか何とか悪口を言ふ、之はほんの世間の誇りであつて要するにさう言ふその資格の無いものには何も出來はせぬ。自己に識見がなかつたり貧しかつたら國家的事業にも救濟事業にも當る譯にゆかん、仕たくても出來んだ、公に盡さうとすれば怎うしても徳望と財産がなくては出來んのである、全くかうした人は眞に宇宙運命の原動力に接觸してよく活かすのである、今日日本有數資産家は自己を利し國家を利用して居るではないか、富力者が益々大きくなれば益々名利を獲得するのである、殊更に自から國家公共的に盡さなくとも財産が多くなればなる程その人が大きくなりその仕事が國家的となり公共的となり、知らずく間接には國家を利して行きつゝあるのである。之れは洋の東西を問はず實歴が瞭々と示す。

扱さいざしんけんとなると什麼どうしても金かねの前まへには何物なにものもない、金かねがものを言いふのである金かねの無いものが如何いかに立派りっぱに饒舌しゃべつても空理空論くうりくうろんで本當ほんたうの仕事しごとは出来できないのである。何なんと云いつても富とんだ人が偉えらい富とんだ人が國くにに盡つくす、國くにに盡つくす人は一番いちばん力強ちからつよいのである。

【かうして見ると先まづ第一だいいち自己じこが富とんんければならない、富とんの道みちを考かんがへねばなるまい實行じつこうせねばなるまい、富とんだ上うへにも大おほいに富とんなくてはなるまい、して富とんさへ持もてば愚鈍ぐどんな者ものでも賢者けんしやの仕事しごとが出来る、國こく家の大おほき名譽めいじゆを得うることも出来できれば權勢けんせいを布しくことも出来る、門閥もんぼく華族くわそくのお家柄いへがらでもお金持かねもちには結婚けつこんしかける、恣ぞんな美人びじんでも、どんな別嬪べっぴんでも花はなの顔かほせ月の眉まゆ、沈魚ちんぎょ落鴈らくがんの姿すがたを耕まほふ窈窕ようてう美人びじんでも左右さいうすることも出来できれば女房にようばに迫おそることも出来る、世界せかいを濶歩くわくほして大手おほでを振ふて通とほることも出来できれば、乘のるに自動車じどうしゃ出るに侍女じぢよ、今日けふは芝居しばいあすは花見はなみかうした風ふうにするその金かねと云いふものは随分ずいぶん重寶ちゆうぼうのものと思おもへる。縦令たてへい斯いう云いふ風ふうでなくとも江戸えど子氣質こきしつの背越せこしの錢ぜには持もたぬと云いふ空威張からみはりは今日こんにち時代阿呆だいおにせられる、米櫃こめびつがなる借錢屋しゃせんやが吐鳴となる夫婦喧嘩ふうふけんわが突發とつぱつする、苦舌くつが持もてる家業かぎふが不和ふわとくる、一家いっかの破やぶれも金かねでまた、春風和氣はるふうわいき霧々きりきり一家團樂いっかだんらくの温情おんじやう暖あたたまる平和へいわの家庭かていを造つくり、一家いっかを興たかす基もとも金かねである。

金を溜る理想



華族くわそくであらうが役人やくにんであらうが先祖せんぞが豪たかからうが金かねが無なくては威張いはりも出来できん飛とうが跳はらうが相手あてにするものがない、金かねさへあれば馬鹽ばしほも恰巧ちやうきやうに見みへ鈍馬どんまの野郎やらうも紳士しんし振り威張いはりも利きけは信用しんようもする、無理むりも通とほれば道理だうりも引込ひっこむ、この世智辛せちがらい世よの中に金かねだくと金かねに目めを呉くれるは都會みやこも田舎いなか

も同じことだ、扱てかうした金なるものゝ溜方はどうしたらよからうか是から秘訣を解いて見よう。

金を溜るべき心の用ひ方

金を溜る道すじ。

世の中には金を溜る道すじと金を溜ぬ道すじとがある、この道筋があるにも拘らず世の多くの人は有耶無耶に素道りにしたがる質を持って居る。尤も下り坂は歩き易く上り坂は骨が折れる、而しこの中途で一步向背を顧みればよく解る、氣樂な下り坂は大きな陥穽があつて之に足を這らした最後、動きのつかぬことになるともう人間は終焉、哀れな悲喜劇を演ぜんければならん、上り坂は油断がないから餘り落こつ心配はない骨の折れる換りに頂上に昇つたら、精々潑刺の氣性が養はれて世界を瞰下して大きい仕事が出来、衆望の的となる大きい力を現すことが出来る、嶺の高きは恰度人間の徳望を象かして居るのである、日本には開闢以前數千年の昔富士山と云ふものが現れて世界に稀れな徳望を積む國民性を養つたかしらない。

畏くも明治大帝の御製に

大空にそひえて見ゆる高ねにも

のほればのほる道はありけり

と仰せ遊ばして居る。

元來人間は横着をしたがる何でも人が開いた道を横通りしようとか、やすくと往ける道に踏ばらうとする猾ひ根情の者が多い、之は大の間違で懐ろ手で運を儘よときめ込む人間に善い運命の來るような事は決してない、自から専心努力徳望の山に昇る、自己の往く道を自から開拓する之が第一の手段でなくてはならぬ。大きい金でも溜めて身代家にならうとするには塵うしてもその往くべき道を自から開いて、専心進むそして誤らない様にせなければならぬ。實際金持になりたいと思へば幾等でも金持になる道すじはあるのであるから、何でも金持になる富が造りたいと思ふなら其の方針に向つて進む、所謂第一圖にある如く富へ富へと行く道筋を必ず踐なくてはならない。その道筋をよく活得したなら敢て貧に苦まなくとも愧しめを叔なくとも憫れを乞はなくとも宜しい汚名を流さなくとも宜しい、然るに世間には各ん坊になつたり爪で火を燈すやうな始

末屋でも案外大きい資産を溜るでもなく宇頭の上らないものがある、また不運に嘆ち不付合だと怖けて居るものもある、要するに之等はその道の根本を極めることの出来ん眞に金を溜る意義を解せない馬鹿の骨頂であるのだ、什麼しでも金持になる意義を極めんければ金持や身代家にはなれんのである、必ずや行くべき道筋の秘訣を誤つてはならんのである。

金を溜る第一歩

大體吾人の貧乏は金を溜るべき貯蓄すべく天の下したる宣言であるのだで貧乏は實に難有いものである、貧乏なればこそ吾人貧乏人に金を溜るべき道筋を誨へて下さる實に天は、與ふるに何人にも平等なる幸福を降すと云ふことさ前述べた通り、貧乏と云ふ悟りは金満家になると云ふ第一の出發點であらねばならぬ、貧乏と云ふ辛苦艱難は金を溜ると云ふ道を啓くことを教へて下さつた天の配劑であるのだ。

【吾人は飽までも健全の道に安んじなければならぬ身の辛苦と困窮は天の誠めである、人の惡事をして得たる金は決して正道のものではない、人に對する害惡は自分の辛苦を思ひて斷じて人に害を加へてはならないことも解らう、人に害毒を流した人の辛苦を想ふては我が身の辛苦に較

べて恐ろしい罪惡であることを思はんければならない、斷じて不正の金を求めてはならない、不義の金は何等得る處がない惡錢身に着すの喻へ忽ちに觀面の因果が宿りて必ず惡殃となりて露れ、遂に終りを全うすることが出来んその苦しきは貧の辛苦以上の天の禍誅であるのだ、夢惡事をしてはならない之は宇宙運命の原理に屢々述べた處である。】

さて貧乏は金持になる出發點であるとしたなら、正しく踐んで不正の金を得ず曲つた事をせず正しく往かんければならない、富者の萬燈より貧者の一燈と云ふことがある、この貧者の一燈は實に力強いものである、誠にこの一燈こそ後々に光らせる大なる樂みである、貧乏の味ひもまた愉快と云ふべしである。元來今日富限者だの大金持だの云ふ人間も素々を洗へば御多分に漏れぬ吾人貧乏人共の仲間入であつたのだ、始めから富限者たる道理がない、貧の苦みから奮然立つて富の道に携つたのである、さうして見ると現在の貧乏人も金持になれない譯でもなく今日の金満家を觀て眞に末頼母しい候補者の思ひがするのである。それで金持にならう身代家にならうと思へば第一番には現代一流の確實なる金満家になつて居る人の實蹟を鑑みるもよい徑捷であらう、その人の性行經驗等心理状態を洞察してよく實蹟を捉へよく活得することも最も必要である、その

人の性行を做つて時代的に運用を極めるもよい道すじであることは云ふまでもない、併し先づ萬人に可及的よく解る様に言へば第一金を溜ると云ふ決心覺悟の目的出發點に對ふ、向つたなら必ずその金を溜る道すずを一步一步前進する必ず前進する、一步でも退歩してはならぬ、それから油断をしてもならぬ、つまらん道草を摘んで居てもならぬ、眞面目で一心にして着實に金を溜る道に歩を進ばねばならぬ、また進む間には種々の迷ひ道や拔道があるこの道は貧乏に行く近道であるから、こんな道には一切見向もせず足を入れぬ様によく注意して詳索して要くことでそして休まず一日に必ず十里なり二十里なり道を歩くと云ふ事にせねばならぬ、その歩く道程に目標を附けることが大切である、一日に何里往つて一日の旅費用は幾干である、そして豫算を立て成べく節約をして餘分の費用を遣はない加ふるに豫算を餘す様な考へを以て行く斯うして行く追々に金は積まれて身分相應に身代家となれることが出来る。その道に就て疲れない方法、迷ひ道や、遊ひ道、怠り道等よく辨へて確實なる規定を選び餘分の費用や贅澤の眞似をせず、自から實行する、自から實踐躬行すると云ふことが必要である。

金を溜る資格

諸其の行方は什麼であるかと云へば吾人には天から下された體業があることは前説した、その天賦の體業を尊重して忠實に勤め上る、自己と云ふものゝ精勤の結果が金と云ふものを生み出すのである、眞面目に忠實に活らく如何なる階級の人を問はず精一ぱいその職柄に出精する、夫々應分の仕事や營業に心血を濺いで勤勞すれば必ず身代と云ふ實を結ぶのである。

【世間には往々幾等働ても金が溜らないだの、身代家になれないだのと云ふて愚痴をこぼして居る人が數多い、斯んなことを云ふ人はその行方が間違つて居る、意思が弱う方角違ひを續出し必ず粗ひ點があるのである、それを知らず自分に頭の無いのを棚に上げて天を恨み地を嘆く、運だといふて自から世を悲觀したり横着をする、悪い根情を惹く自から身を卑しむ愚劣の根情は人間の錆である、斯なことで決して立派なものにもなれば身代家にもなれん、そんなに天は容易く幸の道と與へるものではない、世間の多くは自からを陥れて愈々自分からして自分を惡運に導いて居るのではあるまいか。つまらんと云ふは小さい頭の智慧袋、勉強に張りがない故と思ふ圖の的に外れて癖が出る、運ぶ心棒が金であると云ふ如く宜しく萬人は却て大に精神籠めた勤勉努力が第一番必要であつて、總て斯道の運用を極め益々大ならしめんとすれば至誠一貫の送りでなく

てはならぬ、吳々も眞面目なる活動を續けよ然らば絶妙の斯道に通ずる、運は必ず来る幸運は頭上に降ることを保証する。

已に選ばれたる天賦の體業を専心奉仕することは云ふまでもないが、體業たるや頗る困難であるし易々之を得ることも随分六ヶ敷のである、そして階級に著るしき相違もある、相當學術を極めて満足に行くものもあれば無學のものもあるから一様でない。要するに金を溜んとする資格を造る上に於てはその動機を見ることが一番大切であるのだ、今日成功者の跡を見るに時代の推移にある動機を見いだす之をよく擲つて活得した人が眞に一代の富を造つて居るのである、之は宇宙運命の原動力による數理の然らしむる處で天の暗示である、頭のある人は必ず感得することが出来る此の動機に感得したる人は如何なる職業柄であらうと、その仕事や營業上に非常に有利な道を見出す一層繁榮に趣くことが出来るのである。

夫れは何れも動機を見出すことが出来るかといはゞ常に自分の體無に對する心掛が必要であつて、従來自分の職は自分として満足でない依て否應其の職に就ては居るものゝ全く本意でないと思ふて居る人は、他に求めんと心掛て世の大勢なり日々社會の活事物に目を通す、根氣よく日を通して居る中に突嗟の間に頭に映するものがある、之を活得するのである、所謂天の暗示に合體するのである、さうすると零落の身分から頭が忽ち上つて將來偉大なる業を組織して富と名聲を造ることが出来るのである。

【先改めて金を溜んとする人に就て動機は一切を啓示して見れば、内外の事物に就てその動機のことごと金を蓄るべき習慣を造るのである、時代に切迫して必要なものと見たなら夫を擲えて活かして世の中に出す、そして職業の道とする、例へば學校を卒業したら如何にして出世する金を積むかを考へる。子供が出来たら如何にして教育するか金を積むことを考へる、其他祝事や凶事に就ても、還暦の祝には人生活動期を満足に了つた盛典を擧ぐそして社會萬衆を歡ばせ慈善を盡し、そして新たに大なる精力を蓄へ金を溜て一層世の中に活ると云ふ精神を振作する、また凶年の時は社會に慈善を施しそして用意の金を積む、其の折々境遇に際會して念頭にもち皆之天地暗示に従つてそして金を蓄るべき方法を選ぶと云ふことは大に必要である。月給者の如き年收獲者の如き年に何割年季に何割と貯蓄する、第一基本貯金、第二準備貯金、第三豫備貯金と云ふ具合にする、即ち基本貯金は定まつたる資産に貢ぐ、準備貯金は家事教育其他の發展性のものに貢

ぐ、豫備貯金は不時の用意に足すと云ふ具合にするが一番安全の道で、そして國家の慶事及び不
時の出來事等の特に宜しく活眼を開いて其道を求めると云ふことは資格を造る上に於て、第一番
に心掛けねばならんことである。人間は一切萬事に心掛と云ふことが必要であるから人から教ゆ
る迄もなく實行する人が眞味の人ののである。】

爰に一定の學術を以て體業を決する相當の階級者はそれはそれとして、先無秩序な決定せない下
級の人々に對する體業の定め方や自から其の選に入り易き職業を、選んで金を溜る資格者たる道
を示して見る。

體業のある人（官吏、會社員、職工及農水産業、貿易、商買、製造、卸小賣、行商）
體業の無き人（外交員、行商、露店、手間賃、日雇人）

主もなる之等のものから善い口を探し出し手易い方法から、最初眞就目に働いて眞舉目に勤めて
居ると、往々くの間は適業に當り合せるものである、それから追々と微細に心掛けて居ると思
はぬ手藝にありつく事がある、如何なることがあつても、僥倖を夢みたり周章たり焦つたり落膽
したり失望したりせず、一心不亂に根氣強くやると云ふこと、強いと云ふことが最も必要である、

如何なることがあつても如何なることに出席しても、意思を強くして遣つて行くと云ふことが必
要で意思の弱いものに昔から成就した試しがない。斯うして行く月々の獲り溜や儲け溜を金を溜
る路すじに依て直に實踐すると云ふ具合にしてゆく、此間には自から前に述たる動機と云ふ機微
に觸れて偉大な芽を萌き出し堂々たる、一流の事業家となることも出來んものでもない。

金を大きくする道

一錢の金でも成べく大きく活用せよ。

金を溜るに當つて第一ばんの心得は一錢の金でも大切ににしてそして成べく、大きく活かすと云ふ
ことである。此處に一錢の金を如何に利用したら大きく活かして大きく利を得ることが出来るか
と云ふ考へを養成する道である、一錢なり十錢なり一圓なり百圓なり一纏りの金を何でもより以
上に活かすと云ふ考へをする、之が一番熟した金持の遺方であり金を溜る秘訣であるのだ。

元來金錢自體を應用する道を大きく考へんければ金は死んでしまふ、單に金を積むばかりでは駄
目である、金に仕事をさせて金自體が金を溜る金を殖す方法、最も有利なる方法に投じて之を連

用すると云ふことである。

【この意味に於る活川は何も投機や賭事相場に手を出して一攫千金を遺すと云ふ譯ではない、こんなものに出して居ると足元を危くする基であり人間遊惰たるパチルスであるのだ、一時の僥倖を夢みるは人間の能ではないことは既に述べた通りである、外國の諸例を以ても明かなことではないか、外國人は投機と云ふ様なことは罪惡を醸すものとして居る同じく投資するにも最も前途有望なる新事業に新事業にと投する、之が外國人の遺口であるから、凡て進取的氣象は確かに外國人が偉いのである、西洋文物の進化は到底日本の及ぶ處ではない。

例へて見れば大略平均年利の割合で活川法を示せば。

- 一、郵便貯金類 四分八厘
- 二、國債券數 五分乃至七分
- 三、銀行類 六分乃至八分
- 四、貸金類 八分乃至一割五分
- 五、株券類 六分乃至二割五分

六、土地家屋類 一割乃至六割

七、商賣類 二割乃至六割

八、殖産類 三割乃至八割

凡そ平均であるが五から八までは時代の趨勢で著るしい相違が生じまた都會と地方で大に異なる、大體に於て最も有望な殖産法でまた能く根本原理を呑込んで實質を極め金を投する運川法に基き、最善の努力とその妙用を圖れば益々無限絶體に大きくなり増殖の道をメキメキと造り上る。とが出来る、巨萬の富を爲し大資金を贏ち得ることも至難ではない、要は運川のやり方で金の力を現はすのである。

金の活川を積極的にやれ。

有望なる事業と見込んだなら各種の事業にドシドシと投資する、そして元金の運轉を成べく急速に手易くして、運轉度數を積極的に重ねると云ふことである。今茲に一百圓の元金を利廻し二割として運川する。

- 五 回目 二百四十八圓八十三錢

十回目	六百十九圓十七錢
十五回目	千五百四十圓七十錢
二十回目	三千八百三十三圓七十五錢
二十五回目	九千五百三十九圓六十錢
三十回目	二萬三千七百三十七圓六十一錢

同じぐ利廻し三割として運用する、

五回目	三百七十一圓二十九錢
十回目	千三百七十八圓五十八錢
十五回目	五千百十八圓五十八錢
二十回目	一萬九千〇四圓九十五錢
二十五回目	七萬〇五百六十四圓〇七錢
三十回目	二十六萬一千九百九十九圓四十六錢

以上の通りで運轉回數を積極的にやる方法を考案して増殖を圖るが早路である、僅か只の元金百

圓でこの通りであるが、元金五百圓はこの五倍となり元金一千圓はこの十倍となる驚くべく大した巨額となる、運用の妙を築き上げれば實に表の示す通り莫大なる富を造り大身代家となること出来るのである。何も空想ではない事實遣れるのだ。

金を殖やす根據を固めよ。

富有の身分となりて相當資金を得たならば健全なる増殖法を講ずるが第一番賢いやり方なのである、富に任せて漠然彪大な事をやると云ふが如きは餘り感心せない、先づ安田善次郎翁の如く、目星を附けて充分なる踏査を施し愈々確實と認めたら、自から投資して行くと云ふ遣り口である。如何なる有利であらうが一時的の利慾に迷はずして、此物は將來有望と云ふ目星がついたら標準を定めて一定の金を資くと云ふ方法は實に健全の道であらねばならぬ、資金運用の如きは健全なる頭を活かせねばならない、その人の手腕にあるので到底人の教へを以て行ふ様では立派なる運用法は圖れないものである、その人の固い度量が大切に先見の明ある人は偉大な力を生み出すのである。

大體に於て財産増殖の根據法としては全然財産を三大別にし運用すると云ふが確實である、即ち

土地、株券、現金と之が割合の歩調をとつて、時勢により土地家屋に何程、國債や株券に何程、現金に何程として各々その趣の活用方法を積極的に圖るのである、之等の按配は宜しく時の數に連れて運用せなくてはならないから一時に決することは出来ないが、株券や現金は發展性事業に利用して絶大な増殖率を昂めるものであるから、その活用法により凡そ資金を投せなければならぬ、財産増殖根柢法は實に大切なものであるから明識なる頭を以て善く究め將來臆を囓むの侮なからしめんことを期せねばならぬ。金を溜る人は日々この呼吸で往け。

最後に金を溜るに就て日々の心掛の奥義を解しておく。人間と云ふものは可笑もので心氣轉換とも云ふ心の立直しに依つて著しい力を生たすものだ、その精神の持方で仕事に非常な違ふ何とも氣の附かない時は何とも思はぬが、或氣轉によりてはその仕振が非常に著しい結果を生み出す。元來人間たるやその性格に至つては天は常に暗示を與へて居るのであるが雜念性の多き人間は何時か、何時かこの暗示に觸れる時少ないのである、夫故に世の中は平凡の生活に甘じて居るのである。此暗示の特性を享る心理状態を養成すれば心身の健全にある通り、人間は偉大なる妙機に接觸し人間以上の活きをする事が出来るのである、それで金を溜んと思へば何でも此の暗示

の力を利用するにあるので、金を溜ると云ふ暗示の下に活動するのである、決して平凡な眞似をして居ては金なんか溜るものではない、金を溜る暗示の作用を吞拔た人は體業に精勵して行ば必ず金は溜つて來るのである、金が溜つて來れば面白い程溜つて來て暗示の力が益々効用を現すこととなる、で金を溜んとする人は先づ斯う云ふ態度の初念を要するのである。

金を溜るに就て暗示の用ひ方

是は恰度側斷面を顯かしたものであるが金を溜ると溜らない、金満家になるとならないのは潮の満干と同じ道理であると深ひ暗示をして進むのである、そして之は満潮であると思たなら可成金の出し方を占めて出さないと云ふ具合で行くことで、この呼吸がよく解つて來ると身分相應に非常に趣味を以て金を溜ることが出来る。例へて見ればあるものを買はんとする、而し是は經濟上餘り必要でもない在てもなくてもよいものだとしたら之れ引潮である大切な機であると、心を取直して財布を占めると云ふ具合にする、夫からまた人は休みて居るこの間に朝早く起て物を拵へ用を足す金を使はなくてはならない處を自分で仕遂る、金が入る之れ満潮でみると云ふ具合

常に心掛けて行く、そしてチビく金は郵便貯金や貯蓄銀行に預け入れることにする、萬事を

下層階級

貧乏になる引潮

懶惰 怠慢 奢侈 逸樂 華美

贅澤 情慾 誘惑 病弱 吝嗇

中層階級

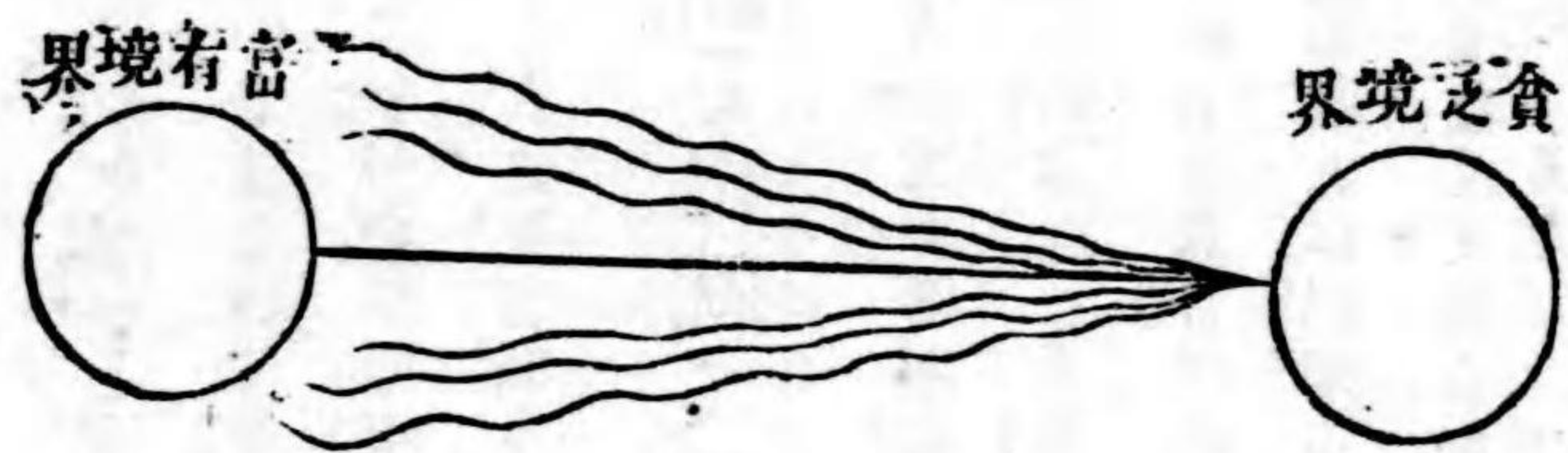
最も大切な中心地位

上層階級

金満家となる満潮

正直 實踐 忠實 攝養 報德

恩愛 勉強 精勤 仁義 節儉



この徹でやつて行けば宜しいのである、金の出入を考へるのである、金の入ることは人は休んで居ても自分は仕事をして金を積むと云ふ主義を實行する金の浪費することは成べく避けて通ると云ふ眞面目なる態度を持つことである。

世間には金に迷われて金の奴隷となるものがある金に睡が眩むのである、之は甚だよろしくないことで折角金を溜んとして顔に泥を塗る、根情を穢なくする、悪いことをする、斯くしてまでも金を得んとする、こんな人間が往々あるのでは實に嘆かばしいことであつて金の爲に會ひ人間の生命を奪れて居るのである、こんな手合は人格は滅茶くである實に寒心に堪へんのである、前に屢々述たる如く金なるものは正しく踐んで正しく得なければならぬ、着實なる精神を以て金を溜るべき道に進まなければならぬ、誠の前には何物も恐るゝに至らん如何なる仕事でも、忠實なる自己の體業は天稟の力によつて必ず正しき人に永遠の幸福を與へるのである、眞面目なる人は社會から重愛されるまでもなく天の庇護を必ず享るのである。悪いことをして一時はよく榮える様に思ふが之は大なる誤りである、悪事の塊りは永遠に榮えることは決して出来ない宇宙

富力者の道

運命の原動力の理によつてよく解ることである、曲つた根情を以て世の中を通り私腹を肥さんと
 するはより以上の惧るべき悪徳が自分の身に還る。『金溜る人の心と降る雪はつもり積つて路を忘
 る』と云ふ歌があるがまた『金と灰吹は溜る程穢なくなる』と云ふ諷刺もある、實際世の中に
 ば金の爲には何物もないと云ふ流つ垂れの吝ん坊や、彼の善良なる下級者の血を吸て己を肥す高
 利貸や、慘酷なる資本家の類、また金を悪用して社會に害毒を流す人間共之等一切の冷血動物は
 實に憫むべき唾棄すべき白徒であるのだ。宗教道德家の金を嫌忌するはこゝを云ふのである、強
 ち金が悪いのではない、金の爲に財の爲に人間を謬るのである、金はその持つ人により貴重なる
 寶ともなればまた土芥ともなるのである。要するに金の爲に人間を誤る勿れと云ふのである、謬
 れ易い金そのものゝ活用は實に人間を活かす大切な道具であるのだ、金をよく使ふは人の人たる
 道に適ふものと云ふべきである。

世の中の罪惡がその多くが金である、してみると金は實に大切なのである、金の爲に人間を上げ
 下けするのである之が世の中の多くの常である、金そのものが卑しいのではない人間の値打が賤
 しいのである。金はどうしても積まなければならぬ、乃ち金は善く積んで善く之を使ふのであ

る、職業の貴賤は問ふ處でない、自から正當と欲し正當の道を盡して富を求むる爲の自己境遇に
 於る職業は如何なる職業でも辭する勿れ、眞に力ある蓄積の道であるのだ。人の黄金を羨むに足
 らん自から働けよ働いて收れよ人間には働く時期がある、働く時に働かねば一生何等得る處なく
 平凡の終生を告げんければならない、今より富を持ざる世の人々は共に社會に活動を試みて奮闘
 勉勵するがよからう、天は降すに清貧を以てした吾人の値は實に幾萬金なるか圖り知れないので
 ある。自己の勉勵より得たる金の收獲は大に利殖の道を講じて金溜る道に携る時は汗水垂らした
 零碎の金と雖も後には幾萬金となるのである、予輩が金を溜る理想とその彼く道を解たのである
 が、現時世の中が物慾に驅られるを覘つて種々不可思議相な名目を着け、一攫百萬金を得る様な
 ことを吹聴し社會の人を唆かす怪しからん人間共が澤山ある、之等の手合に罹つてはならない漂
 手で粟の掴み取はない、甘さうな大金儲法だの傳授だの言つて慾の皮の深い人間を釣込み私腹を
 肥す世の狡猾共であるのだ、予輩の述べた以外にこの世の中に決して奥義も秘訣もない不可思議極
 まる怪かしい事を云ふは世の中の人を陥る惡辣の手段に外ならない、夢迷つてはならぬ要は富
 の蓄積に於る實踐躬行にある、世の中が浸々として進む時代の激しき競走場裡に立つて優勝者

たらんとすればそれだけ自分が活動せねばならん、世の中は平時と戦時を問はず人生自由の競争である、吾人はこの自由の競争の暗示を念頭に持つてそして烈しい世中に立つて行くには人一倍の努力が必要である、自から正しく進んで正しく探るより道はないのである、非常の努力は非常の効を生む、非常の奮闘は非常の勝利者たることを忘れてはならないのである。

金が敵の世の中だと云ひ金に親子は無いと云ふ淺ましい世の中、往古今來これが爲に親子兄弟の仇し合ひ睨み合ひが生ずる事例は乏しくない、金は斯くまでに慘酷なものである、世の經濟界の狀態によりて人心が縮まり人心が伸たりするではないか、金の爲に失敗に泣き金の爲に一家の不和を來らし、金の爲に糊口を繋ぐ、金の爲に命を屠し、金の爲に名譽を毀け、金の爲に會ひ權力を壓倒さる、かうした多忙なる世の中窮したる者飢たるものに金を恵めば宛然神の如く歡ばれ。過酷なる仕打で膏血を絞り貧民を苦しむるは鬼の如く憎まれ怨まるゝ。嗟呼かうした現代の世の中否先の世の中にも益々彌々金と云ふものは必要に迫られて來るのである。

列國の競走場裡に立ち國家の缺陷を補ひ社會の時弊を救濟する、人類同胞相互の保全は方しく富の蓄積でなくてはならぬ。

物質はみな生命の表象にして
善く極め能く得る人は健全の道に安んず

(靈 裏)

人間發揮の原動力 **天性の發揮** (偉力の實現)

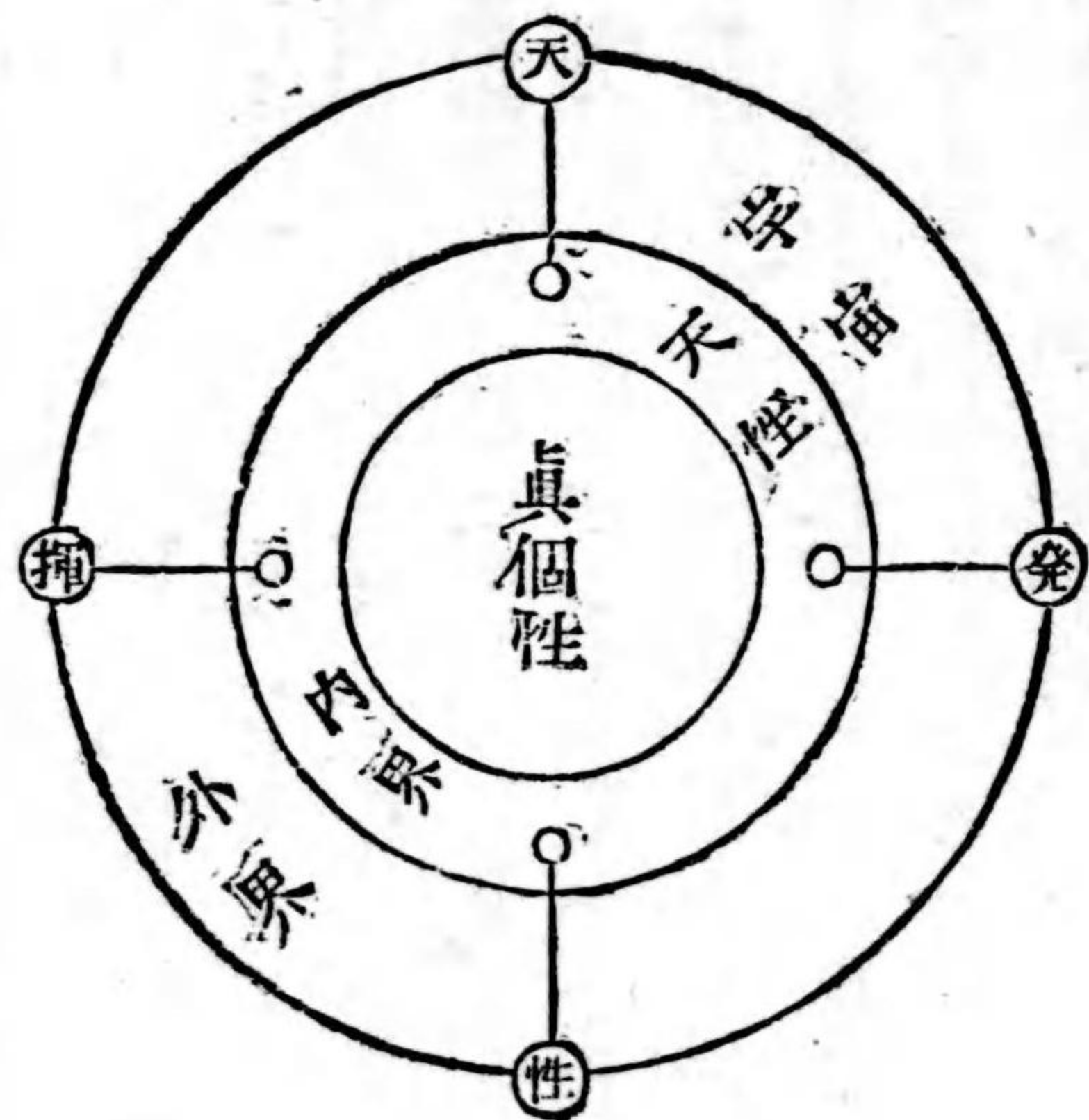
此の世の中の人間としての究竟の目的は何であるかと云はゞ天性の發揮であるのである。此の世に生れ出て天と與に事をなす天の力により永遠に生命を活るその活動は、至高なる心性によりて支配されたる人間の往くべき天の理想でなくてはならない、西哲に『人生の目的は幸福にあり幸福とは人間固有の性を完全ならしめ不足ないを謂ふ。而して人心固有の性とは智慧である』と云ふて居る、之れ予輩の解る天性の發揮でなくして何ぞ、國家社會の幸福も一身一家の幸福も舉てはこの眞個性に活る天性の發揮に外ならないのである。

元來世の中は到る處平々坦々たりである、天の德行に従ふて行く時は何等不運苦痛を嘆つことは一つもないのである、天地間自然の道はよく吾人に適する道を與へ往くべき道を示して、其安定

と中心とに入るを欲せしめて居るので、之を悟らざる人は一生人間としての眞生命に活ること出来ず一身の眞信を顯すことも出来ず、元の木阿彌に終つて何等世に爲すなく蟬蛻に等しき運命を過してしもうのである。素より人間一生の中には尋常一様でない、種々の邪魔種々の障害種々の境遇によりてその行くべき路の出發點が違ふ、而し宇宙大生命に於る吾人の行くべき道に於て何等眞個性には變りはないのである。吾人は時代の資格者として第一この眞個性に活ると云ふ必要があるのである、この眞個性が天の理想であつて天性發揮はこの眞個性に往くべき順序であるのである。人生究竟の目的はこの眞個性に活るにあり、之によりて始めて國家社會の進運と完全の人格、永遠の幸福、健全の道理に安んずることが出来るのである。

【天性の發揮、明治天皇、神武天皇の御偉徳は宇宙中心王位の爲に、乃木東郷兩大將は軍人の爲に、山縣大隈は大元老の爲に、伊藤桂は政治の爲に、岩崎安田は金の爲に、澁澤の如き紳士の爲に日蓮は信念の爲に各々夫れ々天性發揮が偉明なる意義を現はして居る。
 明治大正に渉る麒麟栢東郷大將は此の天性發揮圖解を自然的に應用具顯した殊に著るしい人である、彼は即ち天の徳は地の徳とし地の徳は自己の徳として居る、大將が常に天地の道を明かにし

天性發揮圖解



○内界外界相一致相對照、正理條然の明鏡を觀る如く天地一貫其の行くや
 正しき天性益々發揮せられ人生究竟健全者の道

て敬神の念に深く醇順厚德四海に洽くそして大將は天照大御神を信仰すると云ふ、是れ天の徳を膺る一貫至誠の所以である、天性發揮の根本を極めたる稀代の人、眞個性健全者として永久に光り輝く。

宇宙自然の表象は自己の表象であつて宛然明鏡に映るが如く、天地の大法が瞭々明示せられる、全く大悟徹底と云い眞に活る力、神人合體の發動、發明化學の力等はこの天性發揮の圖解によりて體得せられたる天稟能力の發顯である、人心機微に接觸せるものにしてよくその眞體に入るには、心身の極致修養醇厚精練の秘奥に達せねば到底希むべからざることである。】

元來宇宙は總て一體にして吾人は宇宙の道を往く、吾人の中心地位は宇宙そのものである、吾人を離れて宇宙なく宇宙を離れて吾人はない、天地一體地の利を加へ天の要求が今日の自然界を生んで居るのである。礦物性にしろ水氣性にしろ植物性にしろ動物性にしろ、宇宙にある地體の中心地位によりて適合の結果を顯して居るのである、宇宙と地體と合體し地體と吾人と合體し各々その眞個性に忠實なる所以の道、其時代とその時によく眞個性に忠なる本性はその物の發達を來らし不忠なるものは悉く滅してしもふ。赫々たる天體の光りは吾人の眞個性を活かす澄明淨化

されたる大生命である、天自體の活動は吾人自體の活動であるので、宇宙の條理に違ひたるものはその時に亡び、宇宙の中心を全うしたるものはその時に榮え、併して宇宙大生命に醇化す生存適者理法なるものが行はれて一日も息む時がないのである。天の徳行が息さる如く吾人の主體は自疆して息むを知らぬ、吾人が精勵する努力する其の道は天を理想とするによりて象られ、天を理想とせなくては到底完全體たるものにあらず必ず天の徳行に従つて行かねばならないのである。【因て政治家にして本法を極めずば天下を経綸して指導するの道を知らず到底國運發展に資する爲政治家たる資格がない。教育家にして本法を極めずば、陶冶鍛練に資し智識の啓發、國運の増進を圖る健全の道を得ることが出来ない。

なれない。宗教家にして本法を極めずば時代に順應せる衆生化濟世の誠を盡す熱烈なる信念力の人とはなれない。軍人にして本法を極めずば國家の干城たる眞生命を全うし兵法軍略指揮統御主従の精髓を盡して軍人たる鑑鑑を現すことが出来ない。

官吏にして本法を極めずばその地位と公私の道を全うし識見と資格を保ち順應適切なる健全の官吏たる事が出来ない。

法曹家にして本法を極めずば明知全能よくその道を明かにし真正適確なる裁断を下す事が出来ない。

實業家にして本法を極めずば財界の大勢を洞察し達観して勞資運用の妙を竭し事業發展を期する事が出来ない。

刀圭家にして本法を極めずば妙技を振つて難病痼疾を治癒し國家の健康増進の道に資する事が出来ない。

藝術家にして本法を極めずば微妙の技術を顯して超然的丹誠を籠めた手續を表す事が出来得ない。

各階級に於る事務職員商店員勞働者は本法によらずば到底忠實なる精神に安んじ發展と地位を昂め一代に榮達する事が出来ない。】

先ず第一何人も體業を自重して體業の爲に大に盡すべし體業の爲に盡す上に於てはその地位境遇

を飽までも尊重すべし、體業の爲に盡す自己と他人との分別を明かにすることで而して品性を養

ひ、心身の陶冶鍛練を圖る道に於ては如何なる難局に遭とも屈する勿れである、世にはこの難局

に當りて挫けるものが多く、依て不運を嘆ち不忠の人間となるのである、如何なる障礙に接する

も如何なる辛苦を重ねるとも勇猛果斷よく辨へよく進むにあるのである、斷じて行へば鬼神も之

を避く禍を轉じて福となすと云ふ喻への通り、世の中には偉大なる實績者が多くこの道の實例を

示して居る。

到底意氣銷沈阻喪するが如き薄弱の有様では眞人間となりてこの世の中に活生命を現すことが出

來ない故に何人も、眞個性を活かす上に於ては體業を根本とせる理想の所有者たるにあるのであ

る、人間至高の心性によりて理性に活き、理性より天性に進む、天の理想を以て進む健實なる精

神を活得する、この中に偉大なる力を發見することが出来る、體業に忠なる人は理想の所有者で

なくてはならぬ。政治家でも教育家でも軍人でも實業家でも、自己を指導する理想がなかつたな

らば何ぞ他を指導することが出来るか、資格の無いものは本當の者にはなれない、健實なる理想

天の理想は剛健にして圓熟、偉大なる生命の完全體であつて吾人は主體の發揮に於て、自から眞個性の健實なる理想に活るこの間に抱負と志望とが圓熟して來るのである、種々の邪惑障礙を排除してこの道に入りなば、理想の實現することを得、眞個性を顯現することが出來得る人類の健全者たり得るのである。

【人種至高の生命を保持してこの世の中に活動せんとすれば、須らく志は大なるべし、國家社會に活る忠なる志は最も大なる程よろしいのである、この志の大ききものでないと世の中に大きい仕事をする事が出來ん、昔より東西を問はず英雄豪傑大偉人大事業家となつて居る人々、また今日の文明を造りたる我が明治の元勳の如き志の大なるものに大なる事業を成し遂げて居る、彼等の放吟の詩の如きによつても總て人物と言行氣象がよく現れて眞に末續母しいではないか。世間には大きい志をもつて居る人を嗤ふ、あの奴は大きいことを言ふ馬鹿ものとか飛上りとか猥つものとか何とか云ふて危険視する癖がある、そう言ふ世間の人間共が凡夫の淺聞しさ頭のない奴なので何等低脳には解らなくとも苟しくもこの世と生存する大義を辨へ、宇宙天性の道に自から活得したる人の言行は實に將來偉大なる力を生み出す、偉大なる事業を成就つしめる弱

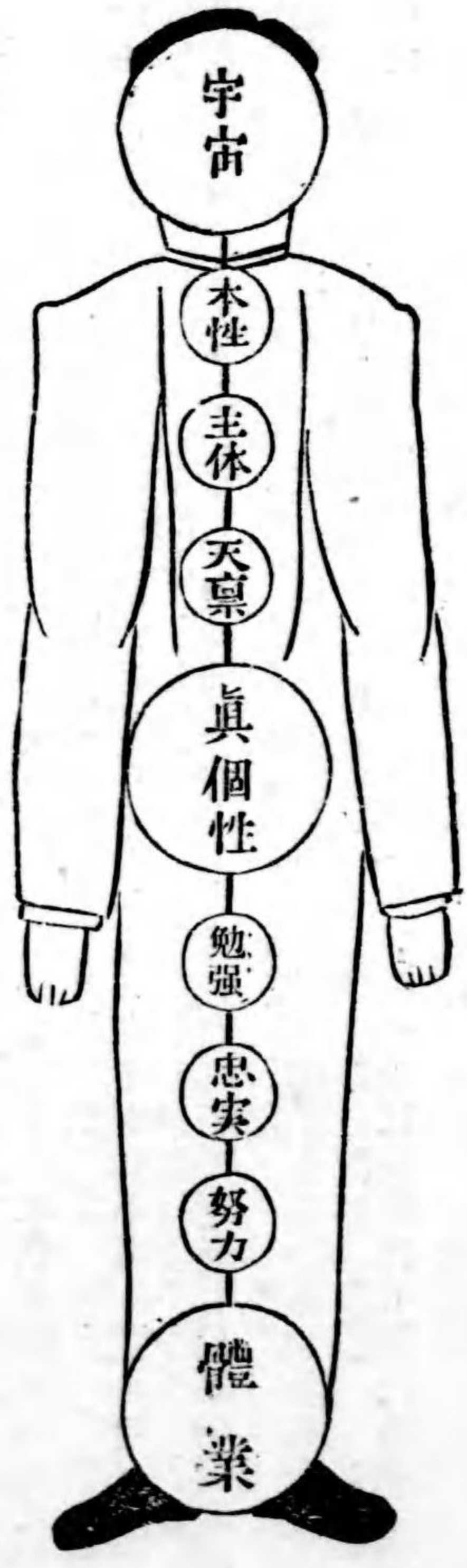
芽であるのだ、將來成功せんとする人は必ず志を大きくもつべし斯る人々は大小なりとも功成るのである。

人間として意氣地なく縮み込んで何等志望も目的もないと云ふ平凡々々ノンペンクラリンの其の日暮しものは、人間として自己活生命に大なる努力をすることの出來ない者で、自から本性に疎き自から下劣の精神に囚れ憫むべき廢滅者となるのである。須らく萬人は志を得よ、自己體業の忠ある志を得よ、そして志は大なるべし、その奮闘努力によつては必ず結果の實を結ぶのである、健實なる志の大なる人によりて國家一身の發展素地に資する大なる力強き生命となるのである。】

總て物事は信じて初めてそこに其の物が現れるのである、即ち信は力なりと云ふ、自信力の必要信念力の必要は眞に人間を活かす大人たるの道であるのである、吾人は理想を立てたなら自信力を益々強くすると云ふこと、體業の法に適ふ健實なる理想に於て、自分そのものゝ向つて進む上に於て何等蟬りがない體業の責任者となりて自己眞個性を活かす、人生究竟の目的を達すと云ふ深い覺悟の下に、遠大なる抱負の實現に努むると云ふ勇住邁進の大努力は實に壯快にして會心末

頼母しいものである、その目的に向つて進むや種々の障害種々の困難に接する、窮境に陥る、外界の邪魔物に囚れると云ふことは必ずあることである、大に進む人はまた大なる難局に接する、而し此處に資格が造られるのである、眞個性の健全を圖る上に於て、自覺と希望が満ち新生命がより以上に養はれ、精練充實、眞に人間たるの資格を造り人生究竟の目的を達する誠の人たり得るのである、故に何人も困窮態地、失敗蹉跎に陥つても決して落膽する勿れ挫折する勿れ、一層勇氣を以て大膽の信念力を振作し益々人生至高の理想に向つて進む、自己初念の完全なる體業の爲には眞に活る生命を捧けるといふ大度量覺悟があつて欲ひ、斯くして古今東西の偉人は成功したのである、人生行路難を嘆ち弱ひ性根を持つて縮けてしまふ泣言を言ふ、一寸のことに萎靡退廢するそんな薄べらの精神では到底立派な人生の資格を造ることが出来ん、そんなに容易く物事は遣れるものではない、成功と云ふが如き思ひもよらぬことで大底の人間が人生中途半葉で挫けてしまふものが多い、大體この世の中を渡る上に於て辛苦艱難を嘗めなくては到底本當の人間にはなれないのだ、資産の力や親の威嚴で地位を支へて居る様な者は世の中に立つ人間としては余り感心の出来ない人間である、立派な人生の資格者たりと言ひ得ぬのである、諺に艱難は汝を玉

人生完全體圖解



人生究竟の目的を達すべき最後勝利者として健全資格を得る

一貫至誠の道

天性の發揮

にすと言ふ如く辛苦艱難は實に社會に立つて有用の人間たる武器、吾吾人に與へたる天の靈劑であるのだ。

世の中は宇宙大生命の保全によりて彌々益々眞個性を發揮顯現せしめる特長が具有せられてあるのであつて、吾人は之により新しき生命と新しき知識とを益々生ぜしめる、その智識も體力も適度の調和を圖り良く合理的適つた活かせ力をする時は絶體微妙の作用を具顯して、精性發達することが出來得る特長が天から與へられてある。それで吾人はこの宇宙中心に活き體業の爲に努力し、その努力たるや忠實、併して強健なる意思の力によりて全く眞個性に入る、之れ宇宙合體本性主體天稟を謬らざる健全者として活生命を永遠に布く、人生究竟の目的を達し最後の勝利者たり得ることが出来る。然るに従來世の中には先天的後天的の人間と鹿瓜らしい區別をした或る一部の學者があつて、人間の容易ならざるを解く勿論人間として立つ上に於ては人間たる道を踐まなければならん、而し人間性の根本を極めたなら六ヶ敷ものではない悉く一體本性である、何も人生の將來を解決することは出来ない世の中は時代と趨勢により無際限に發展する人間眞個性の活力は偉大なものを生み出す、故に如何に先天的の人物であらうとも寢て暮す平凡に世の中を

過し、何等活力のない人間は到底人生健全者たるの資格がないのである、諺に十で神童十五で才子二十過ては並の人となつて終うのであるからして、眞人間となり人生究竟の目的を眞に達する人は宜しく人生完全體圖解にある如く、宇宙大生命一貫したる眞個性を保持して何人も侵すことの出来ない眞個性大生命に活ると云ふ覺悟がなくてはならぬ、異論な説に捉えられて離離遯巡して居ると大切なる人間の時期を失つて終うから銳意専心奮起邁往して事に當る、著實なる努力精勵によりては實に偉大の功績を顯すことが出來得るのである、故に先づ吾人はこの完全なる資格者たるの根據を自から造ると云ふ一大決心がなくてはならない、この決心覺悟によつて進む時は必ず結果の實を結ぶ、謬られたる不幸不運の境涯を脱しては人生健全なる幸福の道に入り人間眞價の終りを全うすることが出来るのである。

元來天性の發揮とは天の理想に向つて進むべき道で、この道に向つて進まんとすれば人間は須らく活眼を開かねばならん、總て世の中は此活眼を開かねば駄目であるので、活眼を開いて見る人は必ず卓絶非凡の何ものかを現すのである、新たに力強ひものが生れて來るのである、併して體業の上に於ては動機を見る、時代の調和を圖る時の數に順應すると云ふことは眞に天性を發し、

相當の地位を贏ち得ると云ふ進歩成就、學術發明の一切を擧て秘訣となるのである。元來人間は人生始元期たる修養期に喲と修養したならば自から自主獨立不羈不屈、自體を發展する力がなくて到底一人前以上の活力を現はすことが出来ん、何處迄も人の教えを請て自由を決するようなことでは到底駄目である、人間の活動機に當りて人から云々せられ之によりて進退するようなのは、この世の活社會により以上の頭を擡けて自分と云ふものゝ大きい仕事をするには出来ぬ、一代の偉業を企て及ぶことは思ひもよらぬ、殊に人間眞個性に活きたる完全者は體業及び關係の事業に對してのものは果して成功するや否やと云ふことは事業に著手する前からちやんと明るのである、これが明らない様なことでは何にもならん、これ位の識見を持たなくては駄目であつて爲すこと失敗に終るのである、凡俗を超越した心頭平靜達觀透徹よく宇宙大勢、動搖波瀾の總てを一見して未來數を察知し誤らんと云ふ資格を備へたならば明識に解るのである。元來成功すると云ふ様な人は必ず頭に映るので、事業目的の如き着手せん前からの結果が瞭々と明る、之れ位の對度を持たなくつてはならない、此様な人が世の中に出て必ず自分の効を奏するのである、この識見力を發見せざるが爲にやれ人間は運命だの不仕合だの、宿命だの不殃だの、天

命だの不幸だの云ふて藻ひたり捲くたり、泣いたり悲しんだり、騒たり駭ひたりする、自からをして不蒙に陥る愚痴をこぼす悲觀をする人は自分の眞個性に活ることの出来ない人であり、眞に宇宙中心を離れた迷子同然何等その道を知らない人である。

この宇宙は總て精神上にも物質上にもその道を啓示して餘す處がない、自から疆め自から勵みそしてよく其の道を活する、眞面目に世の中を組織すべき道を教へて居るのである、世の中に迷う様なことは一つもないよく極めよく知るにあるのである。元來人間は心性理性に活るから天の德行と同じうする本性があつて、天の透明體は人間の精神印象を強め相通する性能を具有して居るのである、之を悟らざる人は人間として一生眞價を現すことは出来ない、故に自から極むる力を養ふ、自分からして自分を啓く一大決心を以て進む、斯うして行くゝよき運命に接觸する益々澤々と云ふ具合になつて來るのである、元來世の中は原因なくして結果を生むことは無い、善き種を蒔ば善き實が乘る、善く働けばその報徳あり、人間は努力を重ねずして何とてよき功を見るものが出来様や活動の良種を選んで植ればその善き實を結ぶ、精神も玉も琢かすば光りなし、肉體も鐵も鍛えずば強靱ならず、宇宙自然因果の理法は人生必然の理法によりて必ず其結果を見

るのである。

然るに世の中には往々幾等働ても良結果を見ないとか、不運であるとか不仕合せであるとか云ふて困つて居る人がある、落膽して居る人がある、斯る人は要するに宇宙眞生命を活得することを知らぬ人である、地位境遇に遮らるゝとか仕たくとも仕様の無い場合だと云ふ人はその眞個性に活る力が無いのである。また世の中には人前で縁々話しも出来ん交際の道も人の道も知らぬ人間が案外の金儲するとか、キビ／＼した智恵才覚のある人間が案外出世せないと云ふ、之等は總て天性發揮を謬り運命の原動力に於る天稟の法則及び兩性の完全、心身の健全等その中和を缺だ不均衡の人たるを免れないのである、故に之等の人々は能く人生完全體圖解及び天性發揮圖解を根本としてその道を極むるに於ては必ず良行の結果を來らし、出世榮達名望地位を贏ちえ終には人生究竟の目的を達することが出来るのである。

【今日の大學を卒業しても腰拔學生が多い、やれあの職やれこの職と職や椅子を求むるに汲々として居る、卒業證の免狀は職を求むる手形の様に考へて居る之が大の間違ひである、其癖に職口が無ひので失望落膽して大に愁嘆する實に弱ひ意志を持って居る、その結果自然浮游の徒となつて

下宿屋に轉がり悪い根情を出す、惡ひ方面に足を入れる、自然惡思想に侵され易いのである、また郷里に歸つて遊惰の民となりその日の生活に甘んずると云ふので之等は自分たる所以の道を知らず、自から活得することの出来ない時代的學術を眞に研めない人なのである、學問の本旨に活る道を知らないのである、總て人間たるの眞個性に活ることの出来ん世の落伍者となつて終う。實に詰らんではないか宜しく斯る人は悲觀するに及ばずして大に心を取直し翻然悟りを啓き自己本性主體の道を養つて、この世の中に一つ新たに自己の得たる専門の學術を布て社會を益せようと云ふ大努力の精神を持つべきである、そうすると貢身的努力は人間至高心性より理性天性に入りて活得する、次第に人間特有性知識を啓發増進して時代の爲めに有用人間となり偉効を奏す、自から發見の道に入りてそして不景氣の如何を關せず、その時代に處してより以上の力を出現することが出来るのである、活社會の時代的人物たる奮發覺悟が最も必要である、之が一廉の學律を修めて世に立つ人の骨子であるのだ。

元來學問は何の爲にするかと謂は吾人が此の世に生を得て人類の眞意義を極め、同胞福祉の健全を期するを人生究竟の目的とす、一切の學術一切の道徳力の出發點は前人未發の眞理を闡明し善

良なる人類同胞の未來を開拓するにあるのである。宜しく學者賢哲者たるものはその天職を全うする事を心掛ねばならない、凡そ人類として活生命の本分を盡さんとする所以の道は、人類至高心性に活る天性の發揮を唯一の道とす、何人も進んで其の道を究めて得る處は實に偉大のものを産むことになるのである。】

勿論宇宙を豁達して心氣一轉、機智の妙を極むると云ふことも必要であつて、そして地の理により時代に順應せる人と時の和を求む、新生命を活得して新たなる運命を開拓すると云ふが如きは、確かに不運なる人の唯一の道である。總てその道によりては全生命を捧げて如何なる障得も之を排し至誠一貫熱烈なる自己體業に努力する、不屈不撓大精神を注ぐこの間に於て何物かを産み出す、至誠は庶物悉く之を感化する偉大なる潛勢力を具へて居るものである。因て宜しく心神の轉換自家獨特の天性を顯して世の中に向つて常に新機軸を出すと云ふことが必要である、世の中はこの熱誠なる眞個性の活きによりて精性醇化され、新たに吾人社會の進歩を生むことが出来るのである、故に現世未來に奈何なる考へを以て生れる者があるか明らない、推理判斷思考力の總ての天性力を具備して眞に宇宙中心天の使命を全うする人が現れるのである。人間は無鐵砲にそ

の人の外見のみにて人物を判定することは出來ないのである、時代の推移は人類の道德、發明科學の宇宙造化力を有して偉大なる功績を揚げしむる宇宙趨勢の然らしむる處、この時に宇宙中心に直入つた眞個性の完全者が天性の發揮偉明なる力を現はすのであつて、宇宙中心に養はれたる大精力を天性發揮に傾注して絶倫の功を奏する、所謂時代的權化たり典型たりするのである。凡そ世に爲す有んとする人間最善の努力、この活社會に對つて大きい仕事をする精神的偉大なる力を顯す、乃ち一の力を以て百千萬を動かす力、精神上に於ても物事上に於ても國家社會に盡す世の統一を以て目せられると云ふ人が一番偉ひのである。斯る人は宇宙の眞生命を活得してよく眞個性中心に入り信念力強大、絶體宇宙三原子の精性醇化彌々偉大なる天性が養はれつゝある終に偉業を布くことになるのである、天才偉人傑士等の性格に入る天性の力を極めんとすれば、その眞髓に直入修養感化を積む絶體に往く力が即ち斯の道にあるのだ。併して神は天地自然の道、人は神に通じ易く天地に通じ易し、神の有益を云々するよりも天性發揮の根本を握らんとすれば、絶體神人の道に入りて宇宙絶體の根本を極める、その中心に活る眞個性を養ふ、人間の心身改造一切の運命は是より來る、神を論し云々するものは斯かく自己本體の道を知らざるものである。

吾人同胞相互の保全は正しき道を行く神人台體にあるのである、至誠一貫より來さる誠の心身、之れ宇宙合體の完全體であるのだ。吾人の身體は行動の表象であつて、行動如何によりて己に人格が決せらるゝ、眞に身の清らかなるの道によりて立つ上に於ては身分賤しとて頓着する勿れ、誠の精神に於て自己信念に向つて進むに於て、何ぞ其の感なるを覺えんや、自から偉績を揚るは自己強烈なる信念による至誠一貫の迸りである。天の道に仕へる之れ吾人同胞の爲に自から盡す所以の道である、その誠意に花が咲かずに居られようか、吾人は自からをして卑下せしむる勿れ、天の道に従ひ何等恥ざる天度を以て無言の間に着々と自己本性の眞個性を顯現するは、宛然太陽の光々と昇天するが如く、自から名を爲し社會をして己を知らしむることが出來得るのである。

今や世は改まり改造の聲に滿さる、人生五十乃至百年醉生夢死するは愚かのこと、眞に今の世のこの宇宙運命の數に入りて自から新生命に活んとすれば、奮起一番大に活社會に對つて努力すべし、而して人生の本義を極めよ、前途に嚮望する大なる決心を抱ひて進む一日も猶豫すべきでない、躊躇逡巡するは失敗者たるを免れず、如何に百萬言を費すも駄辨と來ては何等用をなさない。

いのである、眞理を穿らたるものは一言一句と雖も意味深長徹底その根本眞理を活得するを得るの一大策源地、人間道に入る捷徑である、活社會に入る最も必要な奥義であるのだ、醒たるものも眠れるものも運命開拓法の極意に接觸して蘇生へられよ、何人も進め、進む處に道はあるのである。

本書は一切萬事何人も了解し易からしめ、併してよく根本の道に入るを欲せしむ、素より學理に拘泥せず智に偏せず、迷信に陥らず意に逸せず趣味の間に眞髓を活得す、一切の進歩一切の向上を圖る至高圓滿、理想的健全、國民の基を開き、精性醇化、健全の家庭と健全の人格者を造らしめんと欲する著者獨創の見解によりて成る。本書の讀書はよくその眞髓を極むるにある、第一運命原動力なるものをよく肝銘し、併して宇宙基元數によりよく整へ、天稟の法則によりて能く理し、富の基積によりよく味つて運川の實を示し、兩性の完全に至りてよく適ひ、一生の安定を樹て、は心身健全の道に泰んする、之れ自己天性發揮の奥義に入り、一切の人格向上、家庭和樂、健全安心、人類國家、社會進歩の本意義を了得し、宇宙對變災を豫知して未前に防止し。社會的稀有の成功を贏ち得て、地位名望、富貴榮達、燦然眞個性究竟の目的、人生最後の勝利者として、

天地宇宙生命に繋がる吾人國民一齊、萬歲歡呼の中に花々しく人生自由の大本戦より凱旋して、
天地中心世界平和の理想郷を造り、最も意味ある人生を永遠に全うしたいものである——須らく
萬人はこの考へがなくてはならぬ——。

天性の發揮は人生究竟の目的にして

よく修めたるものは神人共に光り榮ゆ

(靈 裏)

人間性發揮の本領

- 一、人類は一體至上にして永遠自強進歩發達するものなり。
- 一、人類は外界の事物を活得して同胞の爲めに具顯する權利能力を有す。
- 一、人類總ての進歩幸福は各個人の誠忠なる努力奮闘によりて來ざる。
- 一、人類の眞意義は各個人の天性を信賴して同胞福祉の爲めに捧ぐるにあり。
- 一、人類は自重の運命に安んじ自から根本的代表者たることを念とすべし。

(靈 裏)

修養資料 人間性發揮の力 終

大正十年七月八日印刷
大正十年七月拾日發行

修養資料 人間性發揮の力

定價 金壹圓貳拾錢

所有著作權



本書ハ絶對ニ對僞
類似版ヲ許サス

著者兼發行者
印刷者
印刷所

東京市小石川區西丸町五十番地

藤田茂喜知

東京市小石川區久堅町百八番地

土谷清隆

東京市小石川區久堅町百八番地

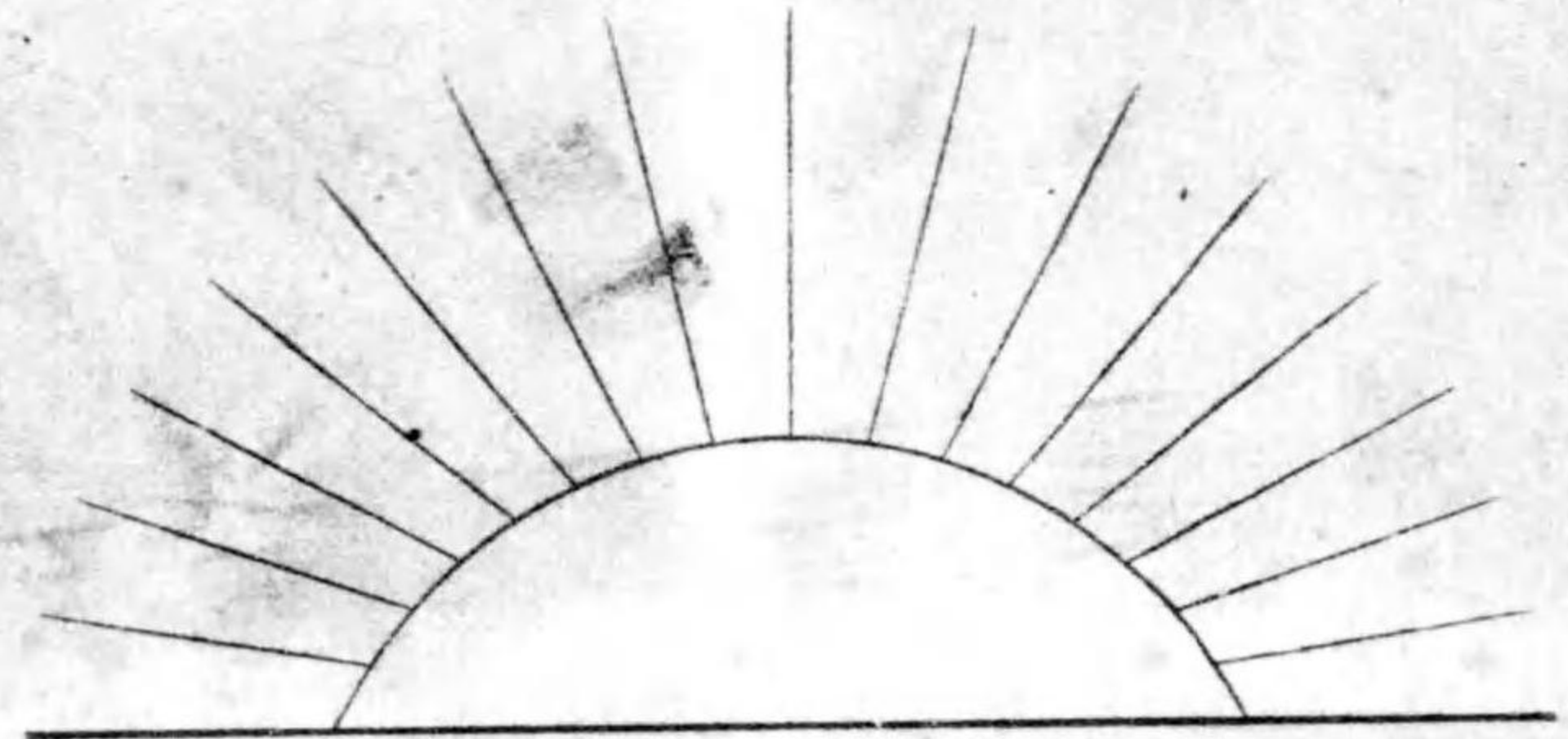
株式會社 博文館印刷所

發行所

東京市小石川區西丸町五十番地
振替東京三三三九七七番

人間性科學研究會編纂部

157
189



力造改命運るな大偉

終